



筑波大学 医学群

医学類・看護学類・医療科学類

未来を創る医療の最前線へ。



CONTENTS

医学群	1
-----	---

医学類

●教育	2
●卒業後の進路	4
●在校生・卒業生からのメッセージ	6

看護学類

●教育	8
●卒業後の進路	10
●在校生・卒業生からのメッセージ	12

医療科学類

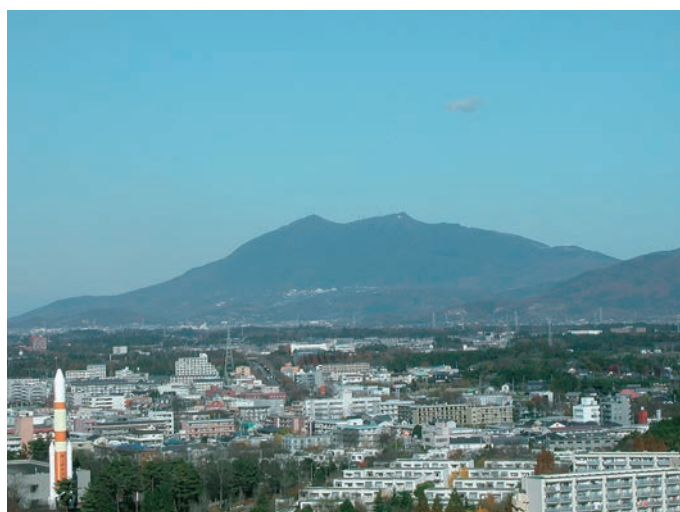
●教育	14
●卒業後の進路	16
●在校生・卒業生からのメッセージ	18

キャンパスライフ	20
----------	----

筑波大学における医学研究分野	22
----------------	----

FAQ	28
-----	----

入学試験案内	30
--------	----



医学類
College of Medicine

筑波大学
医学群

看護学類
College of Nursing

医療科学類
College of Medical Sciences



医学群は医学に関係する学問分野の教育を担当する3つの学類(医学類・看護学類・医療科学類)で構成されます。いずれも病気の予防、診断・治療、看護を目指す医療者と医学研究者の育成を目的としています。

医療と医学研究は、個人や社会にとって最善の治療や解決策となるものを探り続けねばなりません。医学群の教育方針は、様々な問題に多様な考え方で適切に対応できるように、「自分で問題を考えて、解決する力と方法を身に付けていく」ことに力点を置いています。

医学類では6年間、看護学類、医療科学類では4年間、一般教育から専門分野まで幅広い学問分野にわたって、一貫教育を行います。

Medicine

医学類



新しい医学教育

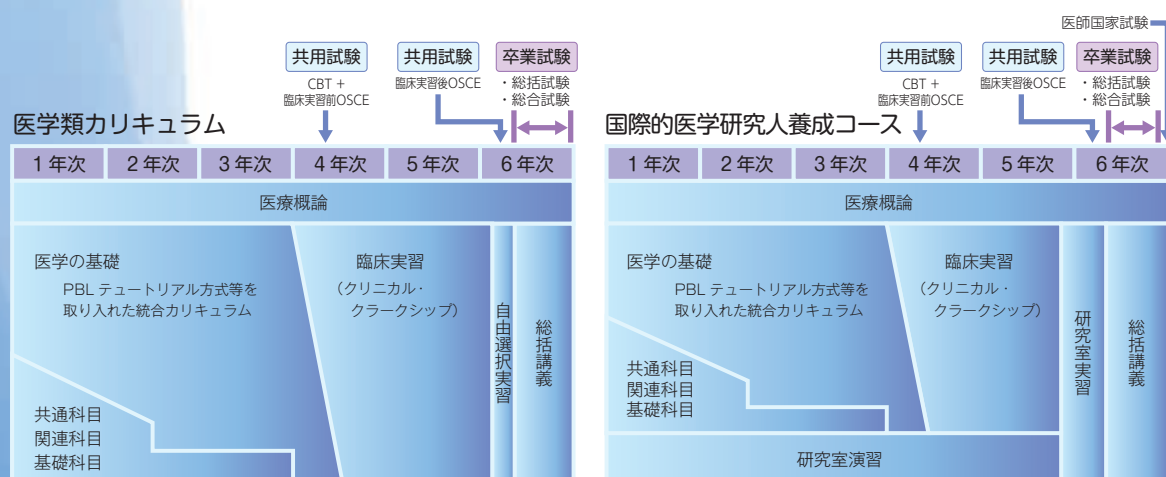
最近の医学のめざましい進歩と医療へのニーズの変化に伴い、医学生が学習すべきものが変わってきました。たとえ最新の知識を詰め込んで卒業したとしても、そのままでは日進月歩の医学と医療の世界では取り残されてしまいます。未知の問題を解決する能力を獲得し、かつ卒業後も自己学習・自己啓発を続ける能力を養うことに教育の重点を置いています。

更に、医師には医学知識のみではなく、患者さんの気持ちに配慮して良好な関係を築ける豊かな人間性が求められています。医学類では、知識・技能・態度教育のバランスを重視してカリキュラムを組んでいます。

優れた医療技術のみならず、しっかりしたコミュニケーション能力に裏打ちされた全人的対応のできるグローバルスタンダードにのっとった“良き医療者”、さらに世界レベルの研究者を養成することをコンピテンシーに掲げています。

■カリキュラム概要

筑波大学は開学以来、様々な学問分野の講義・実習を組み合わせた「統合カリキュラム」を取り入れ、先進的な独自の6年間一貫のカリキュラムを誇ってきました。様々な医学・医療の現場を体験し、問題点を自ら考え分析し解決する能力を養うため、1～3年次は、少人数グループで課題を討論する問題解決型(PBL: Problem Based Learning)テュートリアルなどの能動的な学習方式を主体として、4～5年次には、医療チームの一員“Student Doctor”として長期間の臨床実習を行います。6年次には大学内外の施設(海外も含む)において、自分の興味のある分野の実習を行い、自分のキャリアを考えながら学んでいくプログラムとなっています。



①医学の基礎（1～3年次）

生命科学やヒトの構造と機能の基礎、ヒトの正常と病態について学びます。学習形式は「問題解決型テュートリアル」を中心としており、シナリオ（患者さんのストーリー）を用いて、ナビゲーター役の教員のアドバイスを受けながら、少人数グループでの討議を行います。小グループ討論の前後には、学習の鍵となる講義・実習もなされます。具体的には、1年次「生化学」「組織学」「分子細胞生物学」など基礎医学中心のコース、2～3年次「消化系」「循環系」など臨床医学を中心とするコース、「医療と環境」など社会医学を中心とするコースなどから構成され、これら全てが基礎・臨床・社会医学の分野が統合されて組まれています。1年次から臨床技能教育が始まります。医療面接の技法を学ぶために、コミュニケーション技法の実習があります。基本的臨床技能の習得のために、教育用シミュレーターなどを用意した臨床技能実習室（スキルスラボ）を活用できます。また、一般教養科目は自由に選択できます。

臨床実習に進む直前に全国共通の共用試験があります。知識を問うCBT(Computer-Based Testing)と技能・態度を問う客観的臨床能力試験(OSCE: Objective Structured Clinical Examination)からなります。これらを受けて、臨床実習前の学習が十分かどうか確認します。この試験は、臨床実習に進むために重要な関所となります。

②診療参加型臨床実習（クリニカル・クラークシップ）（4～6年次）

4年次春学期の臨床実習前の演習（診察法・診療録の書き方など）において診療チームの一員として臨床実習に参加できるようになるために必要な知識や技術について学習し、秋から6年春までの1年半をかけて臨床実習を行います。学生は診療チームの一員として、患者さんを受け持ち、実際の診療を通して、医療面接、診察法、基本的な手技、医師としての適切な態度などを確実に身につけます。更に、単に「病氣」を学ぶのではなく、患者さんの思い、悩みを含めて問題をとらえ、他の医療スタッフと協力しあいながら、問題を多面的に解決する能力を身につけます。5年次後半では、長期の院外実習があり、地域の病院・診療所などにおいて大学病院とは異なる住民に近い医療現場で学ぶことができます。

③自由選択実習（6年次）

各自の希望により、大学内外の施設（病院、クリニックなど）、海外の病院実習、研究室など完全な選択制で実習を行うことができます。将来の進路を決定する手がかりになる貴重な機会となっています。

④医療概論（1～6年次）

医師に求められる臨床能力について、医療倫理、チーム医療、ヘルスプロモーション、医師患者関係などの臓器別・症候別の枠組みでは修得が難しい領域について体系的に学ぶことを目的として、1～6年次を通じて設置されています。入学直後の時期に行われる外来患者さんの付き添い実習の他、2年次の「在宅ケアコース」、3年次の「地域における健康教育」など、この多くが「体験型」のプログラムとなっていることが特徴です。

⑤研究室演習・新医学主専攻（選択）

放課後や長期休暇を活用して、興味のある分野の研究室で教員のアドバイスを受けながら、学生時代から最先端の医学研究を行うことができます。その延長で5年次後半・6年次に医学研究者を養成するコースである「新医学主専攻」を選択して、将来へつなげる道が用意されています。

■充実した教育設備

学生の自主的な学習を促すために、医学図書館は夜も開かれている他、全てのセミナー室にはネット環境が整備されており、e-learningシステムを活用して学生が必要な時に、病理組織標本などにアクセスして自習できます。またスキルスラボには、身体診察や救急蘇生を練習するためのモデルが多数整備されています。



白衣授与式



個人防護具着脱実習



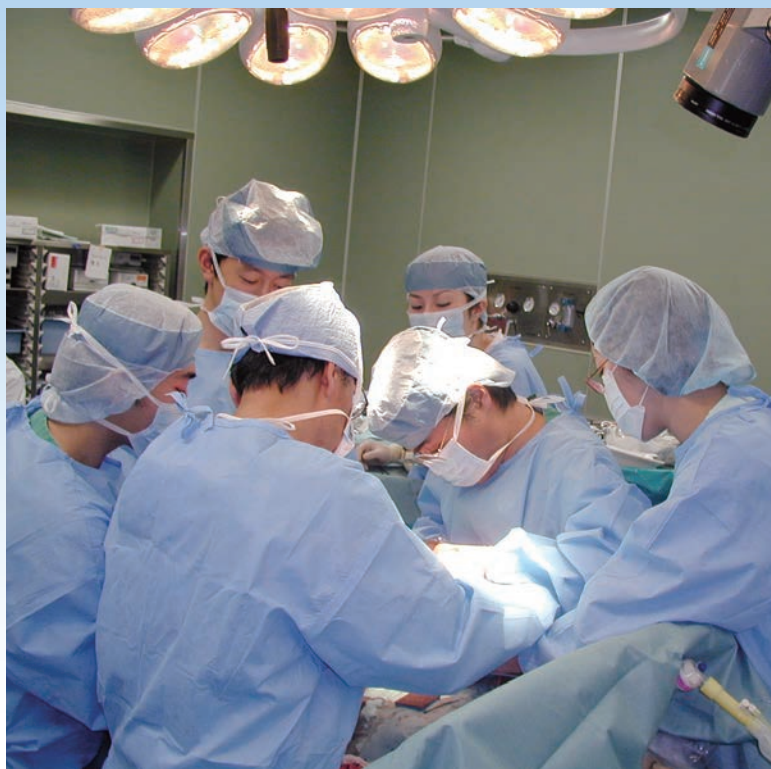
体験から学ぶ ～高齢者・妊婦体験

卒業後の進路

取得資格

医学類の学生は、卒業時に学士(医学)の学位と医師国家試験の受験資格を得ます。医師国家試験を2月に受験、3月末に合格発表となり、4月から研修医として働くことになります。筑波大学医学類は例年医師国家試験の合格率が最も高い大学のひとつとして知られており、開学以来一貫して全国的に高く評価されています。2年間の卒後臨床研修は臨床医として働くために必修となっており、医師臨床

研修マッチング協議会のマッチング制度を利用して研修病院を決定します。その後は、多くの場合は専門領域の研修を続け、各種専門医資格の取得や、大学院に入って博士(医学)の学位取得を目指して日々研鑽を積んでいきます。筑波大学の医学類の卒業生の中で、筑波大学大学院に進学して博士(医学)の学位を取得する人はおよそ3割です。臨床医として働くのには学位の取得は必ずしも重要ではありませんが、医師として働くとともに教育に携わったり、研究を行ったり、一人の医学研究者や科学者として高度な思考を深めていくために学位取得は必ず役に立ちます。



臨床医

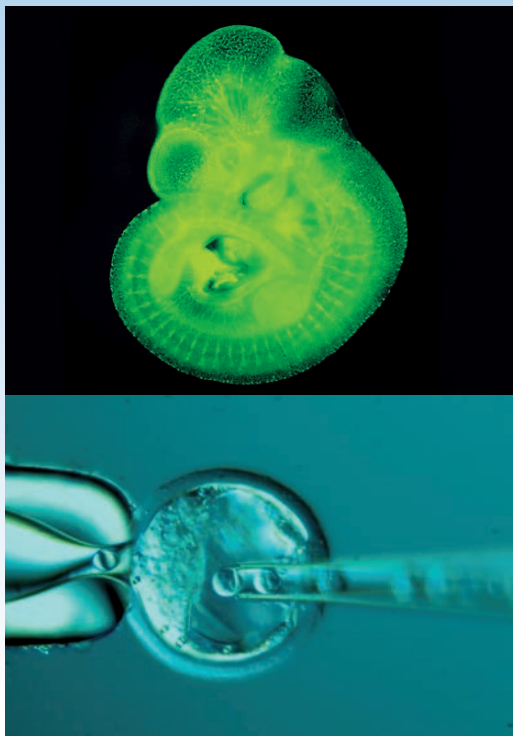
卒業生の多くは、本学附属病院をはじめ全国の研修病院で研修を受け、臨床医としての道を歩みます。本学附属病院では、研修医マッチングにおいて全国有数の研修医が集まる施設になっています。

当院では、本学教員が地域医療の第一線で指導に当たる地域医療教育センター・ステーション制度を活用し、附属病院・市中病院の双方のメリットを取り入れた先進的なプログラムのもとで充実した研修を受けられるように整備されています。2018年度から始まった新しい専門医制度にも十分対応しており、質の高い研修プログラムの下でそれぞれの領域の専門医を取得して、キャリアを重ねていくことができます。

研究者

基礎医学・臨床医学・社会医学それぞれの最先端の研究をめざす卒業生は、卒業直後あるいは臨床研修後に大学院に進学するのが一般的です。筑波大学大学院博士課程 人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 (<http://www.chs.tsukuba.ac.jp/>) では、恵まれた環境で自ら研究を行うことにより、専門知識と高度な研究技術を習得することができます。

また、総合大学の特徴を活かし、神経科学やスポーツ医学などの広い範囲にわたる研究が可能です。医療はまだ不完全であり、新たな医療技術の確立を究極の目的とした医学研究は、現在病める患者の診療にあたる臨床医学とともに医学の重要な一分野となっています。大学院での研究は、医学の進歩をリードする先進的なもので、国際的に高い評価を受けている研究がたくさんあります。博士課程を修了し論文審査に合格すると博士(医学)の学位を得ることができます。



行政官

医療・保健・福祉に携わる行政官として、厚生労働省や都道府県の保健福祉部などに進む卒業生が増えています。国内のみならずWHOなどの国際行政官として活躍している卒業生や、国際医療協力の第一線で貢献している卒業生もいます。



妊婦検診(ユニセフ東京事務所代表 平林国彦氏(5回生)を通じ、ユニセフインド事務所より提供)

教育者

卒業生のうち、2024年現在約230名の卒業生が母校の教員として在籍し、後進の指導に当たっています。医学群の独創的なカリキュラムで学んだ経験を活かし、優れた医師の養成のために大きな役割を果たしています。また、筑波大学のみならず、国内外の大学の教員になっている卒業生も多く、各方面から高い評価を受けています。



母校での授業



筑波大学外科医による手術デモに見入るチョーライ病院レジデント

在校生・卒業生からのメッセージ



南山 和果子さん
2年生
私立
浦和明の星女子高等学校
出身

みなさんこんにちは。医学類2年の南山和果子です。私が高校1年生の時から憧れていた筑波大学医学類に入学し、1年が経ちました。ここでは、この1年間で私が感じた筑波大学の魅力についてご紹介します。

まず医学類では1年生の間、医学の授業だけでなく「基礎科目」と呼ばれる一般教養の授業を受ける必要があります。筑波大学は総合大学であり、様々な学類が開設している授業を受けることが可能であるため、専門とする学問にとらわれず自らの興味を広げることが出来ます。

また、筑波大学は研究教育が充実しています。1年生から履修可能である「研究室演習」では、自分の興味のあるテーマを先生方からご指導頂きながら研究することが出来ます。また、通常の授業や部活動・サークルでは触れ合うことのない先生方や、自分と同じ道を進む先輩方などからお話を伺うことが出来ることも研究室演習の魅力です。実際に私も1年生の秋学期の間、研究室演習を履修していました。

さらに、筑波大学医学類のカリキュラムの特徴として、PBLテュートリアルというものがあります。これは、チューターのもとで少人数の学生が具体的な症例・シナリオについて話し合い、講義で習った知識を用いて解決をはかるといった授業形態です。PBLテュートリアルがあることにより、沢山の同級生と話す機会を作ったり、講義で習った知識をアウトプットすることで学習を定着させたりすることが出来ます。私もテュートリアルをきっかけに、沢山の同級生と知り合うことが出来ました。

最後に、学生生活は勉強だけではありません。幅広い種類の部活動やサークルが存在することも筑波大学の強みです。体育会系・文化系ともに珍しい活動を行っている団体も多く存在します。設備が充実しているため、皆さんにも整った環境で自分のやりたいことを出来る団体が見つかると思います。

筑波大学は整った設備、豊かな自然と温かい先生方のもとで学生生活を送ることの出来る場所だと思います。ここで皆さんとお会いする日を楽しみにしております。



佐久間 遼さん
4年生
茨城県立
水戸第一高等学校出身

皆さんこんにちは。医学類4年の佐久間遼です。今回は、筑波大学に入学し、医学類で学んでいく中で私が感じた「筑波大学の魅力」をお伝えできればと思います。

はじめに、総合大学としての筑波大学では自身の専門分野だけでなく、他の学類の授業も受講可能です。また、授業や部活動で他学類の学生と交流する機会も多くあります。そのため、医学だけではなく様々な分野の講義を受けて教養を深めたり、他学類生や先生方との出会いから新たな気付きや学びを得たりすることが出来ます。こうした環境の中で、学問を追究しつつ人としても大きく成長できることが「第1の筑波大学の魅力」だと感じています。

次に医学類のカリキュラムについてお話しします。医学類では、最前線で臨床や研究に取り組まれている先生方の講義に加え、Team-Based Learningやテュートリアルなどの学生が主体的に学び、考える形式の授業が多く用意されています。これらの授業では症例シナリオに基づいたグループディスカッションを通じて、講義で得た知識を統合しながら患者さんが抱える課題を多面的に考えるプロセスを学びます。また、任意で履修できる研究室演習では、学生のうちから医学研究に参加することが出来ます。最先端の医学授業と実験や解析・論文読解などを通じて、興味のある分野をより深く掘り下げて学べることが「第2の筑波大学の魅力」です。

そして筑波大学では、部活動やサークル活動も非常に活発です。他学年・他学類の学生と関わりながら、身体を動かしたり趣味に打ち込んだりと、私生活でも充実した大学生活を送れることが「第3の筑波大学の魅力」です。

活気あふれる研究学園都市の魅力と自然の落ち着きが共存するつくばの街で、医師や研究者を目指す志の高い仲間と切磋琢磨しながら共に成長することが出来る。それが「筑波大学医学類で学ぶ大きな魅力」だと感じています。皆さんと筑波大学でお会いできる日を、心から楽しみにしています。



松本 いずみさん
6年生
茨城県立
並木中等教育学校出身

みなさん初めまして。医学類6年の松本いずみです。まず、簡単に自己紹介をさせてください。私は自然の中で過ごすのが大好きで、人よりちょっと日焼けをしています。1年間の半分はスキーのために長野に通っています。

さて、みなさんは医学部に興味があって、その中でも筑波大学が気に入り、この冊子を取ってくれたのだと思います。筑波大学はとてもいいところです。田舎と都会のバランスが絶妙で、自然が多く空気が綺麗です。一方で、たくさんの研究施設が集まっていて、大学と研究所の共同研究も盛んに行われています。また、都内へのアクセスも良く、一人暮らしの学生や車を持っている学生も多いので、行動範囲も広がります。とにかく自由で、ザ大学生! という感じのキャンパスライフを楽しめる場所です。

これから医学類についてお話しします。筑波大学の医学類は自分のやりたいことにどんどんチャレンジできる環境です。例えば、研究室や海外研修などが挙げられます。研究室は自由選択で、医学系以外の研究室に所属する人もいますし、所属する学年も問いません。海外に興味がある場合は、海外の病院で実習するプログラムに参加することもできます。また、病院実習期間が長いのも特徴です。長いだけでなく中身もしっかりしていて、自分たちで手を動かす機会が多く設けられています。手技を経験したり、患者さんの診察に関わったりと、早い段階から研修医に近い実践的な経験をすることができるのも大きな魅力です。

6年生になり、筑波大学で学ぶことができてよかったと改めて思います。先輩、後輩、同期に恵まれ、総合大学の強みを活かし、医学以外の分野の人たちとも関わりながら学びを深め、本当に楽しい大学生生活でした。大学生は勉強ももちろんですが、社会性や人間性など多様な面で成長する時期だと思います。そんな大切な時期に、この自然豊かな地で、あたたかい人たちに囲まれて過ごせることはとても恵まれたことだと感じています。ぜひみなさんも、一度つくばの空気を感じに来てください。お待ちしております!



奥脇 一さん
2013年度卒業
筑波大学附属病院
小児内科

筑波大学附属病院の小児内科の奥脇一と申します。つくばエクスプレスが開通したのをきっかけに、地元の千葉県柏市から近い大学ということで筑波大学を目指し、医学類に入学しました。大学生活は医学の勉強だけでなく、バレーボールに打ち込んだ6年間で、充実した学生生活を送ることができました。同級生だけでなく、先輩・後輩たちとのつながりは卒業してからも続いており、今でもかけがえのないものと感じています。

医師としての専門を小児科に決めたのは学生実習での経験からでした。学生実習で小児科をまわったときに、入院している子供たちが病院で学校の宿題をするといったような日常生活を垣間見る瞬間がありました。そして、そんな子供たちに寄り添う医療をしている小児科の先生たちの姿を見て、病気だけでなく患者さんと向き合うことの大切さを学び、小児科医への道を選びました。筑波大学附属病院小児科での後期研修では、臨床だけでなく、海外学会でのポスター発表、アメリカのPICUへの見学などといった、幅広い視野を持たせていただけた素晴らしい研修でした。小児科医となって診療していく中で、重症な病気の治療を集中治療室で受ける子供たちを診療する経験をきっかけに、子供の集中治療を専門にしたいと思い、国内有数の小児病院へ研修に行き、2022年からは、筑波大学附属病院の小児集中治療チームの立ち上げメンバーの一員として、茨城県の重症な子供たちの診療に尽力しています。

つくばは様々な分野の学生、国内外から集まる研究者の人たちも多く住んでおり、多様性のある魅力的な街です。そこにある筑波大学には自分のやりたいことに打ち込むことができる素晴らしい環境があります。今の自分があるのは、筑波大学での様々な方との出会いがあったからだと感じています。多くのことを学び、経験できる筑波大学へぜひお待ちしております。



井上 貴昭さん
1993年度卒業
筑波大学医学医療系教授
(救急・集中治療医学)

筑波大学医学医療系救急・集中治療医学教授を務めております井上貴昭と申します。自身は生まれも育ちも関西人であり、田舎の兵庫県立加古川東高出身であるため、入学試験まで大阪より東に出たことがない典型的な地方出身者でした。行くことは叶わなかったのですが、高校2年時に開催されたつくば万博に憧れ、恋い焦がれて筑波大学に入学しました。学生時代は、初めて触れる医学の勉強の面白さと大変さを痛感しつつ、6年間どっぷり準硬式野球部員として、諸先輩や同僚、後輩に大変恵まれた学生生活を送りました。今振り返っても、勉強にも、運動にも、これほど恵まれた環境はない大学であったと大変感謝しています。

自分は、卒後は医師として究極の診断力、手技力、決断力を養える領域としての救急医学に魅せられ、その道を極めるため、つくばを離れて国内有数の救急医学講座に入局しました。主要関連施設勤務、海外留学等を経て、救急医としての腕を磨き、2016年より母校の救急・集中治療部門の責任者として再び筑波大学に戻る機会を得ました。

現在は、自身が様々な施設で学んだ第一線の技を後輩に伝えるべく、学内の救急・集中治療体制の大幅な変革を実施しています。日本救急医学会指導施設認可、全国42番目、茨城県内では初の高度救命救急センターの認可、防災ヘリを用いたピックアップ型ドクターヘリ体制の構築、など県内のみならず、国内外からも注目を集める第一線の救急・集中治療施設として、当院は年々その存在意義が高まってきています。2016年より将来の救急医を目指す若手専攻医21名に恵まれ、徐々に県内に救急医が増えてきました。2020年の新型コロナウィルス感染拡大の際には、ダイヤモンドプリンセス号の乗客救出・搬送のためのDMATチーム現場派遣を皮切りに、病院が一丸となって人工呼吸管理やECMO管理を要する県内の最重症例の応需に数多く対応しました。一方で感染者から院内感染をきたした医療スタッフはゼロの状況を維持しています。

このように、筑波大学には大きな夢と、可能性と、それを可能にできる多くの人材が揃っています。医師としての素養を磨くための教育体制、人的資源、国際性、どれをとっても他にひけを取らない国内有数の大学です。是非本学の門戸を叩いていただき、医師として求められる、臨床、教育、研究、社会貢献のいずれにおいても力を発揮できる素晴らしい医師になって欲しいと願います。

Nursing

看護学類



教育理念

科学性と共感性を基盤とした看護学の専門能力を身に付け、保健、医療、福祉、教育、心理など多職種チームの一員として人々の健康生活の向上や改善を図り、広く人類のウェルビーイングに貢献できる人材を育成します。また、教育者、研究者、管理者としてそれぞれの専門分野で指導的役割を担い、国内はもとより世界で活躍できる人材の育成を目指します。

教育目標

4年間を通して一般的な科目(基礎科目)、専門的な教育科目(専門基礎科目、専門科目)が以下の教育目標を基盤として構成されています。筑波大学の特長のひとつとして他学類あるいは他学群の授業を受けることができます。

1. 基本的人権を擁護し、受容・共感できる豊かな人間性を養います。
2. 高い倫理観に基づいた行動ができる能力を養います。
3. 看護専門職に必要な知識・技術を習得し、適切な判断で看護活動が展開できる能力を養います。
4. 人々の健康生活を援助し、QOLの向上に貢献できる能力を養います。
5. 社会情勢の変化や科学技術の進歩に適応し、新たな看護を展開できる能力を養います。
6. 保健医療福祉などの関連領域の人々と協働し、リーダーシップを発揮できる能力を養います。
7. 研究的素養を育みつつ、生涯にわたって学習を継続できる能力を養います。
8. 国際的な志向を有し、グローバル水準に対応できる能力を養います。

看護学とは

看護学とは人が生まれてから死を迎えるまでに直面する健康のあらゆるレベルの問題を人々が解決しようとするプロセスを支援する学問です。つまり看護は、病気や障害の治療過程に関わるだけでなく、身体的、精神的、社会・文化的に健康でその人らしい生活が営めるよう地域や家族を含めた、病気の予防・健康の維持・増進に働きかけます。そして看護の対象となる人間のからだの構造・機能や疾病の学修のみならず、人々の生活環境や文化的背景、人間の発達に伴った社会・心理学的変化などの理解を通して、豊かな人間性を育む学問ともいえます。人々に看護を提供するための専門技術は、こうした幅広い人間理解と科学的な理論を基盤とした看護学のさまざまな演習や実習を有機的に取り入れながら習得していきます。

学ぶことは

看護学のカリキュラムは「人間」「健康」「環境」そして「看護」の4つの柱によって構成されています。

看護学類では「人間」の生の営みにおける看護の役割を理解しやすいように「環境」を「生活」という概念で捉え直し、看護学の主体性を明確にしつつ、視野の拡大と専門性を深めるために医学、心理学、社会学などとの連携を図ったカリキュラムで学びます。専門基礎科目では「心と行動の科学」「人間と生命科学」「生活支援科学」を3本柱として、人間の多様性と幅広い価値観などについて学びます。

専門科目は「臨床看護実践」「生涯発達看護」「地域看護実践」から構成されています。「臨床看護実践」では看護の基本となる看護技術を習得するとともに、臨床看護に必要な理論と専門的な技術について学修します。「生涯発達看護」では、小児を対象にした看護、女性の全般的な健康について学ぶウィメンズヘルス看護、高齢者の特性に応じた看護の理論及び専門的な技術を学び、「地域看護実践」では広く公衆衛生の観点から、精神看護学、地域や在宅における看護に関する理論と実践について学修します。その他、グローバルな視点の育成を目指した国際看護学、医学類・医療科学類等・他大学で医療を学ぶ学生たちとともにチーム医療について学習する科目など、看護の教育者、研究者、管理者等を目指す学生のために、看護学類では多彩な教育内容を取り入れています。また、保健師及び養護教諭に関する選択科目も開設しております。

主な授業科目 [2025年度入学生カリキュラム（大学案内と一部異なります）]

	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生		
基礎科目	総合科目（学士基盤科目） 体育実技		看護専門英語 保健医療福祉行政論Ⅰ、Ⅱ 国際保健学 医療経済学または環境保健	応用看護学演習Ⅱ（IBT） 医療チーム連携演習 応用看護学実習		
	英語			看護師	保健師 選 択	養護教諭 選 択
	総合科目（ファーストイヤーセミナー、学問への誘いの）情報リテラシー、データサイエンス 国語Ⅰ		哲学通論			
専門基礎科目	人体機能学 人体構造学 医療生命科学とテクノロジー 日本国憲法	人間関係論 心の健康と相談活動 行動科学 コミュニティ・エンパワメント論 人体の代謝と栄養 臨床薬理学 機能形態学演習 遺伝と健康 微生物学 保健統計学 疫学・疾病の治療と看護Ⅰ・Ⅱ 障害理解・老化と健康 子どもの健康と障害	臨床看護方法論 臨床看護学実習（クリティカルケア） 臨床看護学実習（セルフケア） 精神看護学実習 ウィメンズヘルス看護学方法論 ウィメンズヘルス看護学実習 子どもの発達支援方法論 子どもの発達支援実習（保育所・施設ふれあい実習） 子どもの発達支援実習（病院実習） 地域・在宅看護論 地域・在宅看護方法論 地域・在宅看護論実習 ヘルスプロモーションと看護 看護マネジメント 災害看護学 応用看護学演習Ⅰ（OSCE） 研究方法概論 ヘルスプロモーション実習Ⅰ ヘルスプロモーション実習Ⅱ	看護学探究演習	公衆衛生看護学実習 公衆衛生看護活動方法論	養護教諭課題演習 就職実践演習 養護実習
	基礎看護学概論 看護生命倫理 公衆衛生看護学概論 精神看護学概論 高齢者看護学概論 生涯発達と家族支援	基本看護技術 基本看護技術演習 フィジカルアセスメント 看護過程 看護技術実習 看護過程実習 職域における保健活動 臨床看護学概論 精神看護方法論 ウィメンズヘルス看護学概論 子どもの発達支援学概論 高齢者看護方法論 高齢者看護学実習 家族病理とメンタルヘルス 国際看護学 看護学探究概説	公衆衛生看護活動論		公衆衛生看護学応用論 公衆衛生看護管理論	
専門科目						
	現代教育と教育理念 教育史概論 教職論 教育社会学概論 教育の法と制度 学校経営概説	教育心理学 道徳教育 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の理論と実践	特別支援教育 教育課程編成論 教育の方法と技術 生徒指導 教育相談 養護概説			

- 基礎科目
- 専門基礎科目
- 専門科目
- 看護師授業科目
- 保健師選択科目
- 養護教諭選択科目

注）保健師コースおよび養護教諭コースは選択（選抜）制です。

卒業後の進路

看護師

看護師の役割は、健康上の問題から引き起こされる、人々の身体的、心理的な苦痛を軽減し、問題を抱えた人自らが、その問題を解決できるように支援することです。また、看護師は、医療の高度化に順応し、常に研究心を持ちつづける、科学的看護の実践者でなければなりません。

そのような看護師を育成するために、本学類では、総合大学の特性を生かし、看護学を中心にしながら、医学、心理学、社会学等との連携を図っています。また、実践能力の向上をめざして、臨地実習のほかに、臨床実技試験(OSCE)や、医学生や医療・福祉の学生たちとともにチーム医療を学ぶケア・コロキウムといった、他大学でもまだ例の少ない先駆的な教育を実施しています。

本学類の学生は、卒業時に学士(看護学)の学位が与えられます。卒業後は、取得予定の国家資格を生かし、高度な医療を提供できる総合病院など、全国各地の医療機関で、看護師として勤務することが可能です。



保健師

【保健師とは】

地域には、乳児から高齢者まで、そして、健康な人から病気になってしまった方まであらゆる人々が生活しています。その方々の健康を守り、病気にならないように予防し、病気になっても早く回復できるように、そして、生きがいをもって健康的な生活ができるように、さまざまな支援活動を、公的な立場から行っている医療専門職が保健師です。

保健師の多くは、現在、市町村の保健センターや保健所において活動しております。また企業そして福祉施設でも活躍しています。(保健師コースは選択(選抜)制で人数制限があります。)

【保健師の活動】

- ① 地域の状況をアセスメントし、地域の健康問題を診断し地域の健康ニーズを把握します。
- ② 地域の人々の健康ニーズに応じた、さまざまな保健事業サービスを企画、展開します。
- ③ 公衆衛生の拠点である保健所においては、地域の健康を守る広域的、専門的、技術的な活動を行っています。
- ④ 地域の人々に身近な自治体である市町村においては、健康診査、健康相談、健康教室、家庭訪問などを行い、人々の健康を守る活動を行っています。
- ⑤ 保健、医療、福祉等のさまざまな方々と連携し、地域の人々の健康を守るシステムづくりに関して活動しています。



資格の取得状況と卒業後の進路

資格取得状況（新卒者）

	令和5年度			令和6年度		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
国家資格等						
看護師免許	65名	65名	100%	70名	70名	100%
保健師免許	19名	19名	100%	18名	18名	100%
養護教諭一種免許	4名			4名		

* 2012年度入学者から看護学類での助産師教育は終了し、大学院で行っています。

進路状況

	令和5年度	令和6年度
病院等（看護師）	51名	51名
都道府県、市町村等（保健師）	9名	5名
養護教諭	2名	3名
進学（大学院等）	10名	12名
その他	5名	9名
合 計	77名	80名

養護教諭

養護教諭とは、学校で子どもの心身の保健管理・保健教育を担当する教員です。看護学と教育学の専門知識を兼ね備えた教員です。主に保健室に常駐し、けがや病気の応急処置、健康診断と保健指導、さまざまな問題や悩みをもつ子どもの健康相談、学校保健委員会のような委員会活動などを行っています。看護学類では、養護教諭一種免許状の取得に必要な看護学、教育学、心理学、医学などの科目が開講され、広い視野から学校保健・学校看護について学修しています。4年次の養護実習では実践を通じて知識・技術を深めていきます。卒業後の進路には、大学院への進学や養護教諭としての就職などがあります。本学では将来指導的立場に立つための養護教諭専修免許状が取得できる大学院が設置されています。公立学校の養護教諭として就職する場合は、都道府県や市が行う教員採用試験に合格して採用されます。（養護教諭コースは選択（選抜）制で人数の制限があります。）

大学院への進学

平成19年4月、人間総合科学研究科に看護科学専攻が設置され、令和2年4月、改組再編により人間総合科学学術院人間総合科学研究群看護科学学位プログラム〔博士前期（修士課程）〕〔博士後期（博士課程）〕が開設されました。看護を通して人々の幸福を実現し、社会の改善向上を図り、文化の発展に寄与することを基本理念に、21世紀のわが国における看護領域の最先端の研究や高度医療に精通した、保健・福祉の変化に柔軟に対応できる人材を育成してゆきます。大学院に進学することで、看護の教育者・研究者を目指すことが可能です。

在校生・卒業生からのメッセージ



やちゅうだ
谷中田 小春さん
4年生
栃木県立
栃木女子高等学校出身

筑波大学の魅力は、何といても「広く、そして深く学ぶことができる環境」にあると感じています。筑波大学では、学群・学類の垣根を越えて様々な分野の授業を履修することができ、自分の純粋な興味や関心に素直に向き合うことができます。私自身も看護学類に在籍しながら、他学類の授業に参加したことで、専門知識だけでなく、異なる分野の視点や考え方にも触れることができ、人間としての視野が大きく広がりました。

また、筑波大学は総合大学であり、さまざまな分野で活発な研究が行われているため、学問を超えた協働も盛んです。研究活動だけでなく、部活動やサークル、学内イベントなどでも、他学類の学生と関わる機会が多く、多様なバックグラウンドを持つ仲間との交流を通して、自分の価値観を見つめ直す機会にもなっています。

看護学類には、自らの将来像を明確に描き、日々熱心に学び続ける学生が多く在籍しています。看護師としての活躍のみならず、教育者や研究者、行政などを目指している学生も多く、それぞれが高い志を持ち、互いに刺激を与え合いながら学びを深めています。先生方も学生一人ひとりの目標を尊重し、挑戦を全力でサポートして下さいます。困難に直面したときには、親身に相談に乗り、進路や学びの方向性について一緒に考えてくださる心強い存在です。

筑波大学では、自分の興味関心に真っ直ぐに向き合い、それを支えてくれる先生方や仲間と出会うことができます。学びを深めながら、自分の人生の軸を見つけていく、そんな日々がここにはあります。受験生の皆さん、ぜひ筑波大学で、自分らしく充実した大学生活を送りませんか？きっとかけがえのない4年間が待っています。



小島 悠さん
3年生
(総合学域群より移行)
茨城県立
並木中等教育学校出身

みなさんこんにちは。看護学類3年生の小島悠です。私は、総合学域群というところから看護学類に移行してきました。筑波大学では、一般選抜のほかに、総合学域群に入学し、1年間あらゆる学類の授業を受けながら自分の進路を考え、2年次から希望の学類に移行する総合選抜があります。私は、高校3年生の大学受験のタイミングで自分の進路を決め切ることができず、1年間様々な分野に触れながら自分の将来を考えるために、総合学域群に入学しました。もともと医療分野に興味があったので、医学群への移行を考えた履修を組みました。高校時代は、看護学類に進学したら看護師になる以外の道はない、と思っていたので、看護学類への進学は少しも考えていませんでした。しかし、大学入学後に、すべての学群・学類の先生のお話を聞く機会があり、そこで、看護学類は看護師になるための勉強はもちろん、研究にも力を入れており、自分のやりたいことに挑戦することができると思いました。これが、看護学類への移行を決めたきっかけです。

筑波大学の看護学類の大きな特徴の一つとして、臨床での看護の実践のために必要な知識や技術を学ぶだけでなく、主体的な学びを実現することができるということが挙げられます。授業では、グループワークが多く取り入れられ、志の高い仲間とともに、自分たちで考える力をつけ、高め合っていくことができる環境にあります。また、看護学類の先生方は、研究者として第一線で活躍されており、授業を通して研究の実際についても知ることができます。先生方は、学生の「やってみたい!」という気持ちを後押ししてくださり、私自身、研究をしたり、プログラムに参加したりと充実した日々を送ることができています。看護学類に移行して良かったと、心から感じています。

筑波大学では、多様な学びを得ることができます。自分が思いもしなかった方向へ進んでいくこともあります。自分の興味をとことん探究することができるこの環境で、みなさんが学びを深めていけることを願っています。ご入学を心からお待ちしております。



佐々木 茜さん
2023年度卒業
筑波大学附属病院
整形外科

私はスポーツや健康の分野に興味があり、スポーツ医学に力を入れているという点を魅力に感じて筑波大学に進学しました。部活動の競技レベルが高く、学内にクリニックがあるなどサポート体制も充実しています。学生がトレーナーとして研修・活動するための制度や、学類を超えて自由に授業を履修できることなど、興味・関心を追求し知識や技術を身に付けていける環境が整っており、たくさんの出会いと学びがありました。

大学受験の際は自分が本当に進みたい道なのか自信が持てず、専門職を目指す学類に入ることを不安に感じていました。同じような心境の方もいらっしゃるのではないかと思います。私は、そんな方にこそ筑波大学をお勧めしたいです。総合大学であり、日本中、世界中から集まる多様なバックグラウンドをもった仲間がたくさんいます。それぞれが高い志を持って幅広い分野で力を発揮しており、日々新鮮な刺激を受けました。看護学類の授業では、専門職として働くために必要なスキルだけでなく、より多角的な視点から看護・医療全体の発展に寄与するための学びを得ました。実際の現場で働く方や、企業や病院と連携して研究に取り組む先生、国内外を飛び回っている先生、道を切り拓いていく方々の講義を受け、多くの学生がそのような人材になることを志しています。グローバルな視野を持つこと、職種にとらわれず社会全体の動きを考えると、自身が教育者・研究者となって分野を牽引する存在となること、臨床の場で働くだけではない、より広い世界で活躍できる可能性を与えていただいたと感じています。卒業後の進路に悩んだこともありましたが、仲間や先生方が必ず相談にのってくださり、そしてどんな選択もサポートしてくださりました。

筑波大学には、多彩な学びを得て知見を広げ、自身の興味を追究していける環境があります。卒業時には、いまの皆さんが想像する以上の自分に成長しているはずです。



半田 理子さん

2021年度（養護教諭専攻）卒業

茨城県公立小学校
養護教諭

私は看護学類を卒業し、県内の公立小学校で養護教諭をしています。

学際的で教科横断的な学びと自然豊かなキャンパスに憧れ、地元の秋田県を離れ、筑波大学に入学しました。入学前は、看護学科は他学科の学生と共に活動する機会が少ない印象があり、閉塞的な雰囲気なのではないかと不安もありました。しかし、本学での学生生活はとても充実したもので、普段の授業や実習、課外活動等いつでも学類の仲間と支えあい、励ましあって笑顔の絶えないものでした。友人と、朝早くから夜遅くまで、医学図書館やセミナールームで普段の試験勉強や教員採用試験の対策、看護師国家試験の勉強をしたことは忘れられません。また、他学類・他大学の学生とチーム医療を学ぶ学類独自の科目をはじめ、教職やサークル活動等、たくさんの人や価値観と出会う機会も非常に多く、入学前の不安はすぐに払拭されたことを覚えています。この出会いによる学びは、今でも日々の活力につながっています。

養護教諭は、学校に数名しかいない看護職です。専門職としての責任は大きいですが、やりがいもその分大きいです。看護の視点はもちろん、教育の視点も兼ね備えた職種として、子どもたちの健やかな学習のために支援しています。子どもたちの元気な声を聞きながら、成長を心と身体の両面からサポートできることがこの職業の魅力だと感じています。

養護教諭のルーツは教育、心理、看護、福祉等様々です。それだけ多くの視点がこの職業に求められるということだと思います。筑波大学看護学類では、特色ある講義や手厚い実習を通して、仲間とともに学び、考え、悩みながらたくさんの価値観と出会うことができます。皆様のご入学を心よりお待ちしております。



高橋 舞衣さん

2023年度卒業

筑波大学大学院
人間総合科学学術院
人間総合科学研究群
看護科学学位プログラム
博士前期課程2年

受験生の皆様、こんにちは。私は、2023年度に看護学類を卒業し、本学の大学院に進学しました。現在は、助産師を目指して学びながら研究にも取り組んでいます。

私は高校生の頃から助産師を志し、筑波大学に進学しました。医療ニーズが多様化する現代では、質の高い看護を提供するために高度な技術と知識が求められます。筑波大学では、エビデンスに基づく看護実践を重視しており、助産のプロフェッショナルとして成長するため、科学的根拠に基づいた助産実践を目的に大学院への進学を決めました。筑波大学の魅力は、専門性を高めるための教育だけでなく、多角的な視点を養える点にもあります。総合大学であるため、1年次から他学類の授業を受けることができます。他の専門分野を学ぶことは、非常に刺激的で自分の視野を広げることもつながります。グループディスカッションのある授業では、他分野の知見を得ることができ、それが自分の専門分野にどう還元していくか考えるきっかけにもなりました。また、学類生のうちから自分の関心を深めるための支援活動も充実しています。自分の興味やニーズに対して、新たに創造することができるため、看護学に限らず、自分の探求心を追求することができるチャンスです。このようなチャンスがたくさん散りばめられているので、自分のキャリアと向き合うためのヒントにたくさん出会えると思います。

さらに、筑波大学は部活動やサークル活動も盛んです。私は勉強だけでなく、課外活動にも積極的に取り組み、仲間と切磋琢磨する中で、学業だけでは得られない貴重な経験を積むことができ、充実した大学生活を送ることができました。医学群だけでなく、他学類の学生とも交流できるのは、広大なキャンパスをもつ筑波大学ならではの魅力です。

筑波大学は、専門分野を深めるだけでなく、幅広い視点で物事を捉える力を育む環境が整っています。たくさんの挑戦と出会いが待つ筑波大学へのご入学を心よりお待ちしております。



宮崎 星さん

2017年度卒業

筑波大学大学院
人間総合科学学術院
人間総合科学研究群
博士前期課程
看護科学学位プログラム
2022年度修了茨城県保健医療部健康推進課
(地域包括ケア推進室 地域
支援・在宅医療グループ) 技師

受験生の皆様こんにちは。私は、2018年の春に筑波大学看護学類を卒業後、茨城県内の保健所での勤務を経て、現在は茨城県庁で保健師として勤務しています。

皆さんは、保健師がどんな職種かご存じですか？ COVID-19パンデミックで知った方もいらっしゃると思います。私自身は、大学入学時には保健師について殆ど知りませんでした。保健師は、多くが市町村や都道府県等の自治体や厚生省などの行政機関に勤務し、疾患や障害を持つ方に限らず地域で暮らす全ての人の健康を支えています。近年では、パンデミックや気候変動、災害、少子高齢化など社会が目まぐるしく変化していく中で、人々や地域は健康に関する様々な課題を抱えています。そのような課題に対し、保健師として住民や関係機関の人々とつながり協働していくことに、私はやりがいを感じています。

私の保健師としてのキャリアのきっかけは、筑波大学ならではの海外研修プログラムと親身になって一緒に将来のキャリアを考えてくださる素晴らしい先生方の存在です。海外研修では、現地の人々の暮らしを肌で感じ、日本とは異なるその国ならではの健康課題や取り組みがあることを知り、その地域の現状に即した保健活動に興味を持ちました。看護学類の先生方には、在学中だけでなく卒業後にもキャリアの多様な選択肢をお示しいただいたいただき、そんな温かい先生方の元で学ぶため、卒業4年目に今度は大学院生として学びの場に戻ってきたほどです。

大学入学時にはほとんど知らなかった職種に対し、今、やりがいを感じ、心から選んでよかったと思っていますのは、筑波大学がきっかけを与えてくれたおかげですし、筑波大学は、卒業生としても長く繋がりが続けることのできるアットホームな大学です。看護学科はどこの大学でも同じと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、緑豊かなキャンパスで温かい友人、先生方に囲まれて、のびのびと学び、沢山のチャレンジの機会を提供してくれる筑波大学を、是非皆様にお勧め致します。

Medical Sciences

医療科学類



教育理念

医療を取り巻く状況は近年急速に変化しつつあります。感染症や生活習慣病の脅威、少子高齢化の進行、また子供たちの成育環境の悪化などが大きな社会問題となっている一方で、ヒトゲノムの完全解読宣言を受けて膨大なゲノム情報を利用して、種々の病気に対する新たな治療法の開発への期待も高まって来ています。臨床検査技術学の分野では、検査法の自動化と先進化にともない、これまでの検査室における検査にとどまらず、医師や看護師との強い連携のもとで、医療のプロフェッショナルとしての責任感と使命感を持ち、臨床に密着した業務を遂行する人材が必要になってきています。

本学類では、このような医療に対する社会の要請に即応するために、医療人としての責任感と使命感を身に付け、医科学の様々な分野で活躍するために必要な基礎的な知識、技能、態度を修得することを目指しています。

将来、医科学領域の研究・教育を推進し、また診断や治療に必要な新たな技術開発とその実践に関わって高度専門医療を担う人材を育成します。

教育目標

4年間を通して一般的な科目（基礎科目）、専門的な教育科目（専門基礎科目、専門科目）が以下の教育目標を基盤として構成されています。筑波大学の特徴のひとつとして他学類あるいは他学群の授業を受けることができます。

1. 基本的人権、公正な判断、及び高い倫理性に基づいて行動できる能力と様々な人間の状況や感情を受容し共感できる豊かな人間性を養います。
2. 高度の専門知識と技能を身につけると共に、適切な判断に基づく主体的な展開能力と将来を先見した専門能力を養います。
3. 医療・福祉などの他領域と連携し、人々の健康生活を援助し高いQOL (Quality of Life) 実現に貢献できる能力を養います。
4. 研究・開発に必要な創造力と学力を養うと共に、生涯にわたり自己学習を継続できる能力を養います。
5. 国際性を志向し、積極的に国際医療活動に対応できる能力を養います。

医療科学とは

医療科学とは、広義では医科学と同義ですが、狭義では基礎医学と臨床（あるいは社会）医学とを結び、人々の健康と安全に寄与する学問・研究です。

心電図、脳波などの生理検査や、血液、尿、組織などの病理、化学、生化学検査をする技術を習得してチーム医療に参加するとともに、疾病の診断や治療に必要な臨床研究や基礎研究を行って検査技術の新たな展開を目的とする学問です。

学ぶことは

1～2年次の教育課程は、医療科学・国際医療科学の両専攻共通で、各主専攻を専攻するための基礎学力や基本的な態度、思考法を身につけます。人体の構造と機能、疾病の成り立ち、保健医療福祉、医学検査学、臨床病態学、医用工学などを履修し、両専攻に共通の基礎と技術を学びます。3年次より医療科学主専攻と、国際医療科学主専攻のいずれかのコースを選択できます。

医療科学主専攻では、病態検査、画像検査、生理機能検査など臨床検査に必須の理論と実際を学びます。臨床実習で臨床検査の現場を体験するほか、医療科学の最先端を体験する卒業研究に従事し、医療科学研究に参画できる資質を獲得します。

国際医療科学主専攻では、医科学領域のグローバルな課題に取り組むための専門英語コミュニケーション力と研究実践力を重点に修得します。



授業科目抜粋

	1 年次	2 年次		3 年次	4 年次
専門的な科目	人体構造学	基礎医学総論	医療科学主専攻	臨床薬理学	医療情報管理学
	人体機能学	臨床病態学		輸血学	医学検査学フロンティア
	電磁気学Ⅰ	免疫検査学		病態検査学	卒業研究
	医科生化学	病理組織学		画像検査学	
	医科分子生物学	遺伝子検査学		免疫検査学実習	
	医療科学概論	血液検査学		医科学英語論文講読の基礎*	
		生化学成分検査学		臨床実習	
		医療経済学	国際医療科学主専攻	医科学専門語学	医療科学特論Ⅱ
		微生物学		医療科学特論Ⅰ	卒業研究
		RI 検査技術学		医科学演習	
		保険衛生論		研究演習	

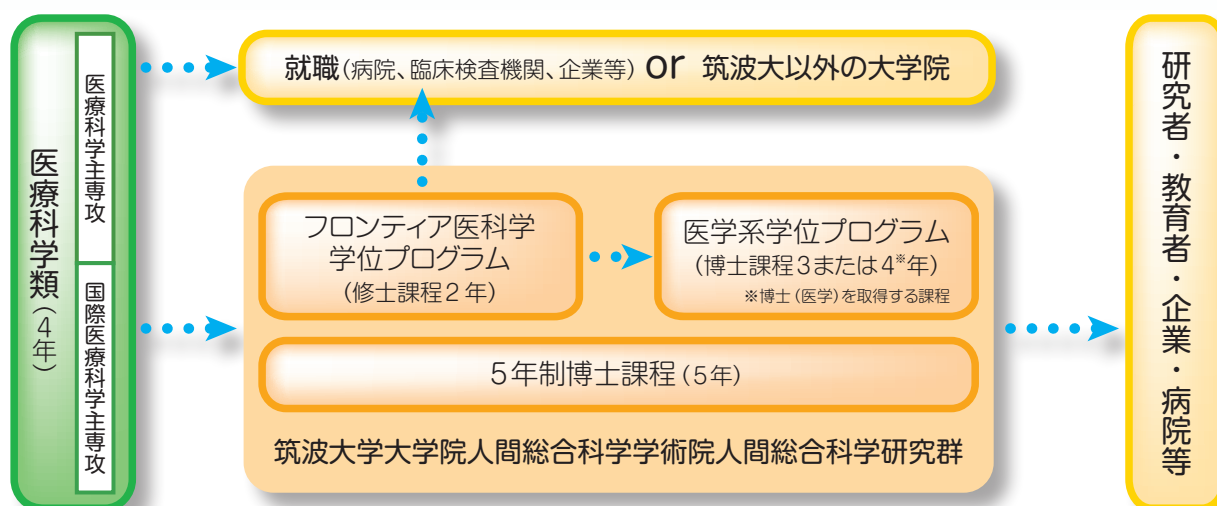
*は両主専攻共通科目

一般的な科目	体育	
	総合科目	
	ファーストイヤーセミナー	
	英語	
	情報	



卒業後の進路

医療科学類では4年の間に、臨床検査学の各科目をコアとして、広く医科学を学びます。卒業時には、臨床検査技師の国家試験受験資格が得られます。進学先としては、人間総合科学学術院人間総合科学研究群の中のフロンティア医科学学位プログラム(修士課程)があり、さらに博士課程への進学も可能です。就職先は、臨床検査技師の資格や大学院における研究を活かしたものになります。



進学

大学院に進学し、より深い医療科学の修得や研究を進め、将来研究者や教育者を目指す道も用意されます。医療科学類卒業生の主な進学先である本学のフロンティア医科学学位プログラム(修士課程)では、修了生が研究者・教育者あるいは高度専門職業人など多様な進路に進んで、安心して健康な社会の実現と維持のために活躍する人材となるように育成することを目的としています。

具体的には下記の人材の育成を目指しています。

- 大学などの研究・教育機関において医科学の基礎的研究の推進に貢献しうる人材
- 医療に関係する企業等において研究開発や医療関連業務に携わる人材
- 国際保健協力・医療行政・予防医学・労働衛生・医療施設管理・福祉などの分野において活躍できる人材
- 医療の安全や健康増進に資するための新分野を開拓できる人材

取得資格

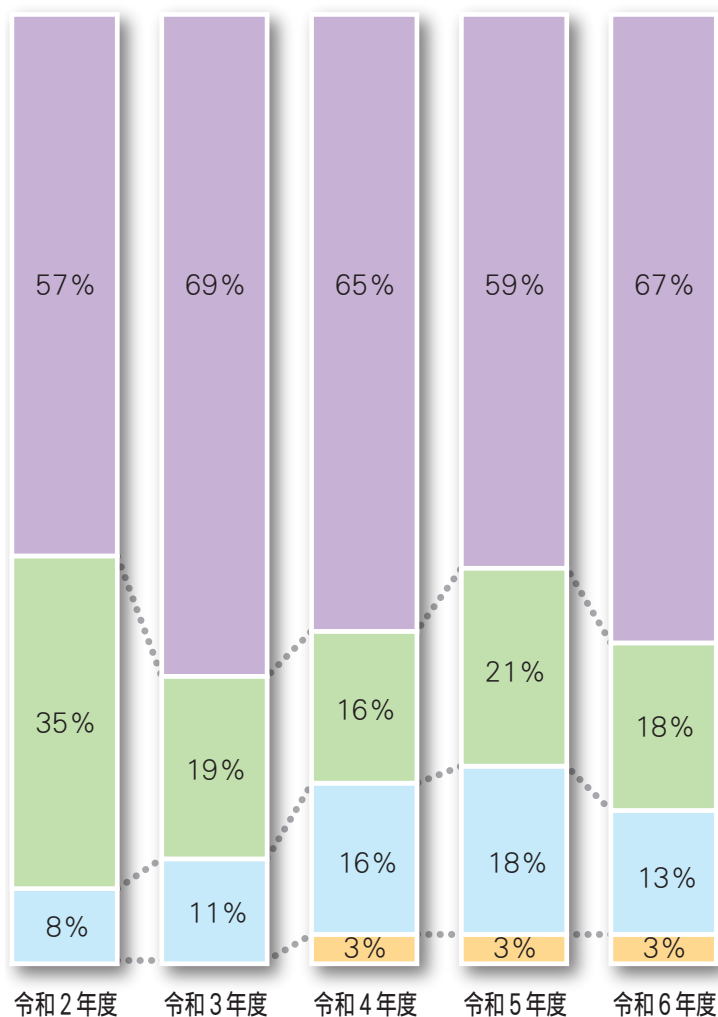
医療科学主専攻の学生は、卒業時に学士(医療科学)の学位と臨床検査技師国家試験受験資格が得られ、合格すれば臨床検査技師としての専門職に就く道が開かれています。その後、細胞検査士養成所に進学し、所定の教育と試験を受けて細胞診の専門家になることもできます。臨床検査技師が資格要件となるものには、超音波検査士、健康食品管理士、日本糖尿病療養指導士、治験コーディネーターなどがあります。

卒業生は病院をはじめ、検査センターなどにおいて第一線の臨床検査技師として活躍しています。また、製薬、食品、化学関連の企業に就職し、その研究所で商品開発や研究で活躍することもできるでしょう。

国際医療科学主専攻の学生は、卒業時に学士(国際医療科学)の称号が与えられます。また、3年次編入学生を除き、希望に応じ自由科目を選択することで、臨床検査技師国家試験受験資格を得ることもできます。



卒業後の進路



進学

筑波大学大学院、東京大学大学院、東京医科歯科大学大学院、東京工業大学大学院、京都大学大学院、信州大学大学院 など

病院

筑波大学附属病院、筑波メディカルセンター病院、順天堂大学医学部附属順天医院、慶應義塾大学病院、日本赤十字社医療センター、埼玉県がんセンター、亀田総合病院、名古屋第二赤十字病院 など

企業・公務員

茨城県庁、福井県警察本部科学捜査研究所、株式会社江東微生物研究所、筑波iLaboratory有限責任事業組合、シミックホールディング株式会社、株式会社EP総合、株式会社メディサイエンスプランニング など

その他

※四捨五入により合計が100%にならない場合があります。

在校生・卒業生からのメッセージ



舩井 日奈子さん

医療科学類 2年生
私立
昌平高等学校出身

受験生の皆さんこんにちは。医療科学類2年の舩井日奈子です。本稿では、私が筑波大学、医療科学類で1年間過ごして感じたことを書かせていただきます。この文章が皆さんの参考になれば嬉しいです。

まず、医療科学類の大きな特徴として3年次に医療科学専攻と国際医療科学専攻のいずれかを選択することが挙げられると思います。入学してからの1年間は、それぞれの専攻の良さに触れ、とても有意義な時間を過ごすことができました。医療科学類では高校とは異なり、医学の専門的な知識を深く学ぶことができます。特に、臨床検査技師としての道を目指すために必要な知識を学びながら、筑波大学附属病院で実際に行われている治療などについても知る機会があり、学びがとてもリアルに感じられます。新しい知識に触れるたびにワクワクしています。さらに、医科学分野の様々な研究室について学ぶ機会もあり、どちらの専攻に進みたいかが決まっていなくても、自分の本当にやりたいことを追求し、自分の目標や興味をさらに明確にできると思います。

医療科学類の仲間たちも素敵な人ばかりです。人数が比較的少ない分、やりたいことや目指している方向が似ている人が多く、自然と仲良くなれます。また、積極的に他学類の授業を受けたり、留学にチャレンジしたりする仲間たちの姿に触発されながら、自分も一歩踏み出したいくなる環境があります。

筑波大学は総合大学であり、他学群・他学類の授業を受けることができ、多様な考え方に触れられるのも魅力の一つです。色々なバックグラウンドを持つ人と話すことは、自分自身の価値観を広げる貴重な機会になります。

大学生活では、自分で履修を組み立てることで効率的な動き方や最善の選択を考える力が身につきました。困ったときは先輩や仲間が助けてくれるので心配ありません！また、自由な時間も増え、アルバイトや友人との交流、趣味を楽しむ中で充実した日々を過ごしています。

医療科学類で過ごす大学生活は、きっと皆さんにとって素敵なものになると思います。皆さんのご入学を心よりお待ちしております！



山本 莉乃さん

医療科学専攻 3年生
私立
茗溪学園高等学校出身

皆さんこんにちは。医療科学類医療科学専攻3年の山本莉乃です。ここでは、今までの大学生活で私が感じた医療科学類の魅力をお伝えできたらと思います。

私は「医療を学んで海外で働きたい」「睡眠学に興味がある」という漠然とした思いを抱いて、医療科学類に入学しました。臨床検査技師として働いたり、大学院進学をして医学研究に励んだり…様々な選択肢の中から自分に適した道を探ることができる医療科学類は、将来就きたい職業が明確に定まっていなかった私にとって最適な学類でした。

医療科学類には多様なバックグラウンドと興味の幅を持ち、志の高い仲間が在籍しており日々刺激を受けています。そんな仲間と、講義や実習で疑問に思う所があれば協力して解決したり、試験前に集まって知識を共有して理解を深めたりしています。日々切磋琢磨し合える仲間と出会えて感謝しています。また、担任の先生や学類の先生にも恵まれています。学業や将来の不安を担任の先生に相談すると親身に話を聞いてくださり、講義や実習では生徒一人一人の疑問に丁寧に向き合ってくださいます。「大学は学生と先生の距離が遠いのでは」と考える方も多いと思いますが、学生にしっかりと向き合ってくれる先生方が多い印象です。1人で不安を抱えず、相談できる環境が整っているのも魅力の一つです。

さらに、医療科学類では様々な海外プログラムに参加することができます。私は2年生の2月に「さくらサイエンスプログラム」という、海外の学生と1週間研究をするプログラムに参加しました。計5カ国の学生とともに彼らが勉強していることや目指している将来について話し、私の将来の可能性も広がられた良い経験になりました。

臨床検査技師になりたい方、医学研究をしたい方、具体的な進路は決まっていなくても医学分野に興味がある方…医療科学類は様々な進路の選択肢を提供してくれるはずです。

皆様のご入学を心よりお待ちしております。



中本 千香さん

国際医療科学専攻 4年生
私立
浦和明の星女子高等学校出身

皆さん、こんにちは。医療科学類国際医療科学専攻4年の中本千香です。今回は、私が医療科学類を志望した理由や、大学生活の中で得られた貴重な経験についてご紹介したいと思います。

私は医学に興味があったこと、高校時代から実験が好きだったことから、医学研究を深く学びたいという思いで医療科学類への進学を決めました。さらに、日本以外の国にも関心を持っていたため、英語での授業や国際交流プログラムが充実している筑波大学に大きな魅力を感じました。高校生まで海外に行った経験はほとんどなく、英語を使うことにも苦手意識を持っていましたが、それをなくしたいという思いもありました。

3年次には、医療科学類の制度を活用し、春休みにベトナム国家ホーチミン市立University of Scienceで1か月間の短期留学プログラムに参加しました。異なる大学生活や研究環境、文化に触れることで、視野を大きく広げることができました。最初は英会話のみでの大学生活に緊張していましたが、現地の方々と学生との交流を通して、自然と英語を使うことへの抵抗がなくなりました。さらに、留学だけでなく、筑波大学で学ぶ留学生へのサポーター活動にも取り組み、さまざまな国の友人たちと文化を超えた交流を楽しんでいます。これらの経験を通して、勉強だけでなく、人として大切なことも多く学ぶことができました。

また、私は体育会の部活動にも所属し、勉強と部活動の両立にも力を注ぎました。忙しい日々の中で、時間管理やチームワークの重要性を実感し、毎日を充実して過ごしています。

このように医療科学類では、医療・研究分野で専門性を深めながら、国際感覚を養い、多様な挑戦を通じて自分自身を成長させることができます。入学前に具体的な将来像が見えていなくても、充実したプログラムが用意されているため、ここでの学びや経験を通して、自分がやりたいことを見つけることができると思います。皆さんとこの素晴らしい環境でお会いできる日を、心より楽しみにしています。



保科 大樹さん
医療科学主専攻 4 年生
長野県伊那北高等学校出身

みなさんこんにちは。医療科学類医療科学主専攻 4 年の保科大樹と申します。筑波大学や医療科学類の魅力、特徴についてお伝えしたいと思います。

「医療科学類」と聞くと、多くの人がどんなことを勉強しているのか、将来どんな職業に就くことが出来るのかというような疑問を抱くと思います。私自身も入学前は詳しく分からず、今でも質問されるとすぐにはうまく答えられません。それくらい医療に関する知識(生物のことや病気のこと、医療機器のことまで様々)を広く学ぶことが出来ます。臨床検査技師として病院で働くための知識・技術を学ぶ授業が多いですが、その知識をもとに臨床検査技師以外の職業に就く人も多数います。研究を突き詰めて研究者になる人もいれば医薬品・医療機器メーカーなどで働く人もおり、数多くの選択肢から職業を選ぶことが出来ます。「将来医療にかかわる仕事がしたいけれど具体的に何がしたいのか分からない」という人でも様々な分野を学んでいく中で本当に興味がある分野が見つかるので、最適な進路選択が出来ると思います。また、医療科学類は1学年40人弱と人数が少ないので実習などを通して同期みんなと仲良くなれる点も魅力だと思います。試験前に情報を共有しあったり、難しいレポートについて相談しあったりすることも多くあります。

私が3年間筑波大学で過ごしてみて最も感じることは、本当に多様で好きなことに打ち込める環境が整っているということです。私の周りには、部活動で全国トップレベルの実績を持つ人やひたすら研究に打ち込んでいる人、驚くべき経歴を持っている人など本当に様々な人がいるので話していてもすごく楽しいです。自分とは異なる考え方をもった仲間とともに充実した日々を送れると思います。

最後になりますが、このメッセージが筑波大学に進学するきっかけや勉強のモチベーションになっていたら嬉しく思います。みなさんのご入学を心よりお待ちしております。



関口 裕也さん
国際医療科学主専攻
2017年度卒業
筑波大学大学院
人間総合科学研究科
フロンティア医科学専攻
2019年度修了
製薬企業(研究職)

進学に際して、「医学・薬学的な見地から社会に貢献できるひと」になりたいと、漠然と考えていた時期がありました。何か特別なきっかけがあったわけではないですが、生物としてのヒトや、綿密に設計された生命システムなどに対する興味関心からくる、ごく自然な流れだったように思います。そのような状況で医療科学類のことを知り、志望するに至ったのは、医科学研究に携わる人材育成にも注力していたためです。興味のあった領域の研究に触れることができる、よい機会だと考えたのです。

詳細はホームページの情報などをご確認いただければと思いますが、医療科学類では3年次に、臨床検査に関わる領域に重きを置いた医療科学主専攻と、医科学に関わる研究や付随して求められる能力開発に重きを置いた国際医療科学主専攻のいずれかを選択します。先述の理由から私は後者を選択していますが、当時は希望すれば前者の必修講義も履修することが可能でした。臨床検査や医科学に関わる幅広い知識を修得しながらも、ずっと興味があつた研究に取り組むことのできた環境は非常に魅力的だったと、今更ながら思います。試験やレポート、実習などが本来の必修分に加わって多忙になることは紛れもない事実ですが、その分、得られた知識や技術の幅が広がったのも確かです。

現在、私は製薬企業の研究職として、新たな治療薬となりうる種を見出すような仕事に取り組んでいます。正直なところ、これまで触れてこなかった分野に関わることも多々ありますが、大学や大学院で学んだことは、現職での業務における基礎体力のように活かされていると感じています。広範な知識を身に付けられる医療科学類での経験がなければ、いまの自分はなかったでしょうし、見据えていたビジョンはまったく別のものになっていたかもしれません。

最後になりますが、医療科学類には、まったく同じではなくとも、似たようなイメージをもって集まってくる方がたくさんいらっしゃいます。皆さまの将来の可能性に繋がるような何かを、大学生活を過ごすなかで見つけられるよう、心から願っています。



柴 綾さん
2006年度卒業
筑波大学医学医療系
准教授

筑波大学をご検討中の皆さん、こんにちは。私は平成18年度卒業生の柴です。私は医療科学類の前身である看護・医療科学類、医療科学主専攻を卒業し、その後本学大学院で修士課程、博士課程を経て、現職に就きました。

医療科学類は臨床検査技師の国家資格を目指す学類でありながらも、それに必要な科目に限らず医学、生物学、分子生物学など様々な学問を学ぶチャンスがありました。講義をして下さる先生方のバックグラウンドも多岐にわたり、教員である一方で各分野で最前線を走る研究者である先生方から、ご自分の研究について講義で聞けたのは本当に貴重な機会でした。私が現在の上司である野口雅之教授に出会ったのも、2年次に受けた基礎医学総論という授業だったことを今でも覚えています。野口教授の「肺癌を完治できる癌にしたい」、「医学部(医学群)で行う研究は、病気の予防、診断、治療のいずれかに役に立つものでなければならない」という強い信念に共感し、3年次から卒業研究生としてご指導頂くことになりました。尊敬できる指導教官と出会えたことは本当に幸運だったと感じています。

また、卒業研究の指導教官のみならず、学類のクラス担任の先生や、講義や実習を受け持つ先生方との出会いにも本当に恵まれていました。学生にきちんと向き合い共に考えてくださる先生方が多いのも医療科学類の魅力の1つで、私は学生の頃勉強のことだけでなくプライベートなことや将来の不安まで相談した記憶があります。その時に築いた先生方との関係は、自分自身が教員となった今でも温かいものであり、かけがえのない財産となっています。

大学生活で得る最も重要なものの1つは人との出会いです。私が良い師、良い友と出会った筑波大学を自信を持って皆さんにお勧めします。

キャンパスライフ

イベント

筑波大学では、年間を通じて各種イベントが開催されています。

- 4月・5月 新入生歓迎祭
筑波大学に1日も早く慣れってもらうよう、サークルを中心にさまざまな催しものが繰り広げられます。
- 5月 宿舍祭(やどかり祭)
学生宿舍入居学生を中心に、神輿、模擬店、野外ライブ等が披露されます。
- 5月・11月 スポーツ・デー
- 11月 学園祭(雙峰祭)
学園祭は筑波山にちなみ雙峰祭と名付けられています。

課外活動

趣味を活かし、たくさんの友人を得ることは、充実した学生生活を送る上で大切なことです。筑波大学には、文化系、体育系、芸術系の約250のサークル団体があります。

学生宿舍

学生宿舍は、筑波大学構内の一の矢地区、平砂地区、追越地区及び春日地区にあり、新入生は、遠方の希望者から優先的に個室入居できるよう配慮されています。一般的な宿舍の広さは約10㎡(約6畳)で、居室には、机、椅子、ベッド、洗面台等が備え付けられています。また、各居住棟に共同の簡単な料理が作れる補食室、洗濯室、シャワー室、トイレがあります。これとは別に共用棟があり、ここには管理事務室、浴場(平砂地区のみ)、売店、理容室などが備わっています。1ヶ月の費用(2024年度)は、宿舍費15,380円(未改修棟)または19,410円(改修棟)でこの外に電気料、食費、入浴料等が必要です。学生宿舍では居住者の安全確保と防犯のため、暗証番号方式またはICタグ方式によるセキュリティシステムが建物入口に設置されています。全ての居室にLAN(有線および無線)が敷設され、プロバイダーと個別契約をすることなくインターネットが利用できます。さらに、キャンパスの国際化推進のため、平成29年4月から国際交流を重視したシェアハウスタイプの学生宿舍(グローバルヴィレッジ)の運用が開始されました。

アパート等

本学周辺地域には、相当数のアパート等があります。家賃等については、地域、建築年数や付属設備の有無により差がありますが、平均的な家賃は、アパート(6畳、台所、バス、トイレ付)で月額約35,000円～50,000円程度です。敷金及び礼金は、それぞれ家賃の1～2か月相当分です。

授業料免除・奨学金・アルバイト

授業料免除……経済的理由等で納付が困難で、かつ学業成績が優秀な場合に免除される制度です。

奨学金……筑波大学学生奨学金「つくばスカラシップ」、日本学生支援機構奨学金、地方公共団体、各種法人等が募集する奨学金制度があります。

アルバイト……学生アルバイト情報ネットワーク(通称:バイトネット)の筑波大学専用のアルバイト紹介システムにアクセスし、各自で申し込んでください。



ゆりの木通り



新入生歓迎祭



宿舍祭(やどかり祭)



学生宿舍・居室



つくばエクスプレス



サークル活動



スポーツ・デー



学園祭



けやき通り



卒業式(医学群)



つくば駅周辺

学年暦 (2025年度)

春学期：4月1日～9月30日

4月	学年開始	4月 1日
	春季休業	4月 1日～ 4月 4日
	入学式	4月 5日
	新入生オリエンテーション	4月 7日～ 4月11日
	春学期 授業開始	4月14日
5月	春季 スポーツ・デー	5月17日～ 5月18日
6月	春 AB モジュール期末試験	6月27日～ 7月 3日
8月	春 ABC モジュール期末試験	8月 1日～ 8月 7日
	春学期 授業終了	8月 7日
8-9月	夏季休業	8月 9日～ 9月30日

秋学期：10月1日～3月31日

9月	秋学期 入学式	9月30日
10月	開学記念日	10月 1日
	秋学期 授業開始	10月 1日
11月	学園祭	11月 1日～11月 3日
	秋季 スポーツ・デー	11月15日～11月16日
12月	秋 AB モジュール期末試験	12月22日～12月26日
12・1月	冬季休業	12月27日～ 1月 4日
2月	秋 ABC モジュール期末試験	2月 4日, 2月 6日, 2月 9日～2月10日, 2月12日
	秋学期 授業終了	2月12日
2・3月	春季休業	2月17日～ 3月31日
	卒業式	3月25日
	学年終了	3月31日



筑波大学における 医学研究分野

生命医科学域

生命科学を基盤に、複雑系である生命現象の理解と、疾患の本質の解明をめざす。

解剖学・発生学	分子発生生物学	ゲノム生物学	幹細胞治療
解剖学・神経科学	遺伝子制御学	微生物叢生態学(メタボロゲノミクス分野)	健康情報総合学
神経生物学	分子腫瘍学	再生幹細胞生物学	循環器学(再生医学)
神経薬理学	分子神経生物学	医工学	血管マトリクス生物学
神経組織学	分子ウイルス学(感染生物学)	実験動物学	分子遺伝疫学
診断病理学	微生物学(感染生物学)	ケミカルバイオロジー・IT創薬	環境生物学
実験病理学	寄生虫分子生物学(感染生物学)	バイオインフォマティクス	環境保健学(産業精神医学・宇宙医学)
認知行動神経科学	免疫制御医学	医学物理学	法医学
分子行動生理学	遺伝医学	環境微生物学	
分子細胞生物学	小児環境医学	医学教育学	

臨床医学域

「生命を尊び、生命を救う」そのために、臨床、研究、教育、社会貢献を全力で実践する。

腎臓内科学	心臓血管外科学	小児科学	医学英語教育
膠原病リウマチアレルギー内科学	小児外科学	産科婦人科学	臨床腫瘍学
血液内科学	消化器外科学	画像診断・IVR学	総合がん診療センター
消化器内科学	腎泌尿器外科学	放射線腫瘍学	橋渡し・臨床研究学
呼吸器内科学	脳神経外科学	放射線健康リスク科学	臨床研究推進グループ
循環器内科学	サイバニクス医学	麻酔科学	臨床研究地域イノベーション学
代謝内分泌・糖尿病内科学	整形外科	臨床検査医学	医療科学
神経内科学	眼科学	スポーツ医科学	医学数理情報学
皮膚科学	光医学イメージング学	臨床薬理学	がん免疫治療研究
感染症内科学	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	救急・集中治療医学	緩和医療学
乳腺内分泌外科学	顎口腔外科学	医療情報マネジメント学	
形成外科学	精神医学	地域医療教育学	
呼吸器外科学	災害・地域精神医学	医学教育学	

病院診療研究グループ

病院診療研究G(病理部)	病院診療研究G(光学医療診療部)	病院診療研究G(手術部)	物流センター
病院診療研究G(輸血細胞治療支援部)	病院診療研究G(リハビリテーション部)	病院診療研究G(総合内科)	臨床医療管理部

社会医学研究グループ

社会健康医学	臨床試験・臨床疫学	国際社会医学	ライフコース疫学
ヘルスサービスリサーチ	社会精神保健学	保健医療政策学・医療経済学	

看護科学研究グループ

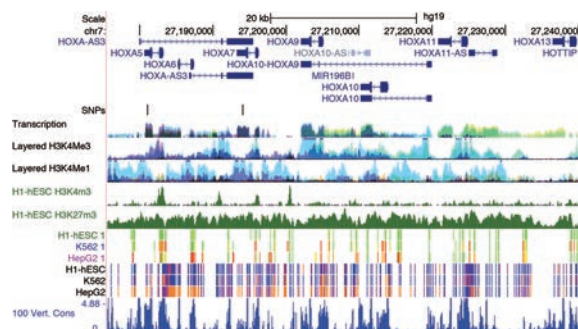
がん看護学・緩和ケア	地域医療・公衆衛生看護学	精神看護学	看護理工学・ウィメンズヘルス看護学
国際発達ケア	高齢者ケアリング学	心理生活支援学	
発達支援看護学	療養調整看護学	グローバルヘルス看護学	

生命医科学域における研究

基礎医学分野では、ヒトの正常と病態の解明を目指して、生命活動を支える分子の働きから、個体の発生、複雑な脳の機能、感染性生物と防御反応、免疫とアレルギー、がんなどについて、世界をリードする研究が多数行われています。

● 遺伝子の発現調節

ゲノム解析技術の進歩により、ヒトの遺伝的多様性と個性や病気になりやすい体質との関連が解析されています。また、遺伝子スイッチのオン・オフの調節についても、多くの因子が協調して遺伝情報の発現を制御する、システムレベルでの理解が進んでいます。筑波大学には、ゲノムの制御状態「エピゲノム」を構成する転写因子やクロマチン構造に関する優れた研究の蓄積があり、ウイルスの複製、がん細胞の増殖、血球の発生・分化、薬物・毒物に対する応答などに関する幅広い分野の研究の基盤となっています。



UCSC ゲノムブラウザ上で可視化したヒト HOXA 遺伝子クラスターのエピゲノム：クロマチン構造、ヒストンタンパク質の修飾や DNA のメチル化状態を解析することによって、細胞の分化・発生段階、ヒト疾患に関連したゲノムの制御状態が明らかにされています。膨大なゲノム解析データをインフォマティクス手法を用いて統合的に解析します。

● 遺伝子改変動物

筑波大学の基礎医学研究のもうひとつの特徴は、遺伝子改変動物を用いた研究が大変盛んだということです。さまざまな生体内分子の機能や最近注目されている幹細胞の研究についても、生きた動物の体内でその機能を調べることが重要視

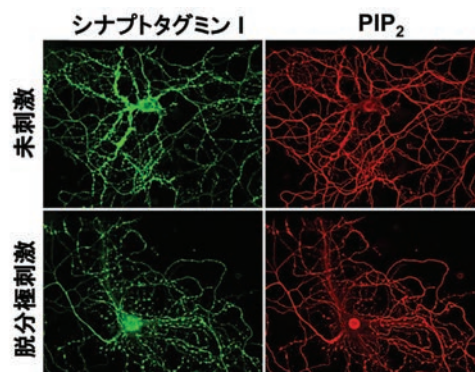
されています。さらにはさまざまな病気のモデル動物を作製し、個体全体の中で正常と病態を理解していこうとする気運が高く維持されています。



血管可視化マウス (Flk1-GFP;Flt1-tdsRed BAC Tg) の妊娠 10 日目の胎仔の像。このマウスは血管の発生や病的血管新生の研究に有益なモデル動物である。

● 脳科学研究

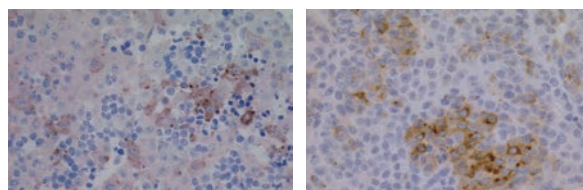
筑波大学では、解剖学、生理学、生化学の各分野から神経科学に取り組んでいる研究グループがあり、神経回路の形成過程や運動の制御、睡眠・覚醒の調節をはじめとする脳高次機能に関する研究など、さまざまな角度から脳の研究が行なわれています。



現代の細胞生物学の技術では、動物個体の臓器や組織を構成する様々な細胞を取り出してシャーレで培養することが可能となり、また、細胞内に存在する蛋白質や分子を容易に可視化することができます。マウスの脳から神経細胞を取り出してシャーレで培養すると、軸索や樹状突起と呼ばれる長い突起を伸ばして、標的の神経細胞とシナプスを形成します (写真左：緑色の斑点は神経細胞内のシナプトタグミン 1 蛋白質を可視化したシナプス部位です)。神経細胞の興奮 (脱分極) に伴って神経伝達物質が放出され、これを標的の神経細胞が受け取ることで神経伝達が行われます。神経細胞の脱分極時にのみ、シナプス部位では特殊な分子 (写真右の赤色はリン脂質の PIP2 を可視化したもの) が産生され、神経活動に重要な役割を果たすことが見出されています。このような研究は、学習や記憶など、脳高次機能の分子メカニズムを理解するうえで大変重要です。

● がん研究

がんの研究もさかんです。転写の調節因子や細胞内のシグナル伝達分子の異常による発がんに関する研究や分子生物学をがんの診断に応用する研究などが行なわれています。



がんの特質の一つは『先祖帰り』です。胎児の組織で特徴的に発現する遺伝子のがん組織に発現することがあり、これらの胎児性蛋白はがん診断のマーカーになるだけでなく、治療のターゲットにもなりうる蛋白です。左はブタの 5 週令の胎児組織で、胎児の初期に特徴的に高発現する蛋白の一つである Dkk3 の免疫染色像です。胎児組織に観察される髄外造血細胞に混じて存在する胎児の幼弱肝細胞に陽性です。右はヒト肝芽腫組織でこの胎児性蛋白は腫瘍細胞でも発現している事がわかります。

臨床医学域における研究

臨床医学分野では、多数の教員がいくつもの研究グループを構成し、さまざまな疾患の原因・発症機序・病態の解明と、新しいより優れた診断・治療・予防法の確立をめざして研究を行っています。

●最先端の臨床医学研究

臨床医学分野においては、近年飛躍的な進歩を遂げている分野の技術を取り入れ先進的な臨床研究を進めています。分子病態解析、遺伝子解析などの手法は、すでに研究のみならず日常の検査としても広く取り入れられ、各個人の病状に応じた最適な治療(テーラーメイド医療)を提供することに貢献しています。また、3D-コンピュータ断層撮影(CT)などの新画像技術、カテーテル・アブレーションによる不整脈治療、内視鏡・ロボット支援手術、がんゲノム医療など、ハイテク機器を用いた研究成果は、すでに臨床応用されています。また、がん、エイズ、遺伝性疾患、自己免疫疾患などの難治性疾患にも積極的に取り組み、臓器移植、細胞療法、遺伝子治療、再生医療などの分野で新しい治療法の開発をしています。また、筑波大学が開発された当初から力を入れている陽子線治療や、近年開発された脳腫瘍に対する中性子捕捉療法は全世界のトップリーダーとして牽引しています。

がん治療法の開発においては一定の治療計画に基づいた治療成績を継続的に集積し、データベースを構築していくことが極めて重要です。このような信頼性の高いデータベースを構築するために、附属病院ではいくつもの先進的な質の高い臨床試験が実施され、新しい治療法の開発に寄与しています。附属病院は2019年9月にがんゲノム医療拠点病院に指定され、がんゲノム外来を開設しました。ここでは病理組織からDNA



筑波大学附属病院のエキスパートパネルの様子。医師だけでなく病理を扱う臨床検査技師、看護師、薬剤師、遺伝子カウンセラーなど多職種のメンバーが参加している。2020年4月からWeb会議になっている。

を抽出し、遺伝子パネル検査、専門家会議(エキスパートパネル)を経て患者さんに適切な治療法の選択に役立てるがんゲノム医療医療を実践するとともに、国立がん研究センターのデータベース構築に協力しています。

がん以外にも、動脈硬化、糖尿病、高脂血症、高血圧、メタボリック・シンドロームなど様々な生活習慣病に対して、脂質に関する新しい概念に基づいて動物モデルを作成、病態メカニズムを解明し、予防法・治療法に繋げるオリジナリティの高い研究に力を入れています。

図：生活習慣病の新しい概念：脂質の量と質

独自の脂質代謝研究から肥満、糖尿病、高脂血症、動脈硬化、認知症のメカニズム解明と新しい治療法の開発を目指しています。臓器や細胞内の脂質の量を調整する遺伝子の転写因子、脂肪酸の質を制御する酵素、栄養状態を感知するセンサーを発見しました。これら因子のエネルギー代謝の制御メカニズムと生活習慣病との関連を解明し、新しい治療法に繋がります。新しいバイオロジーが潜んでいます。

内分泌代謝・糖尿病内科



●世界へー つくばの研究ネットワーク

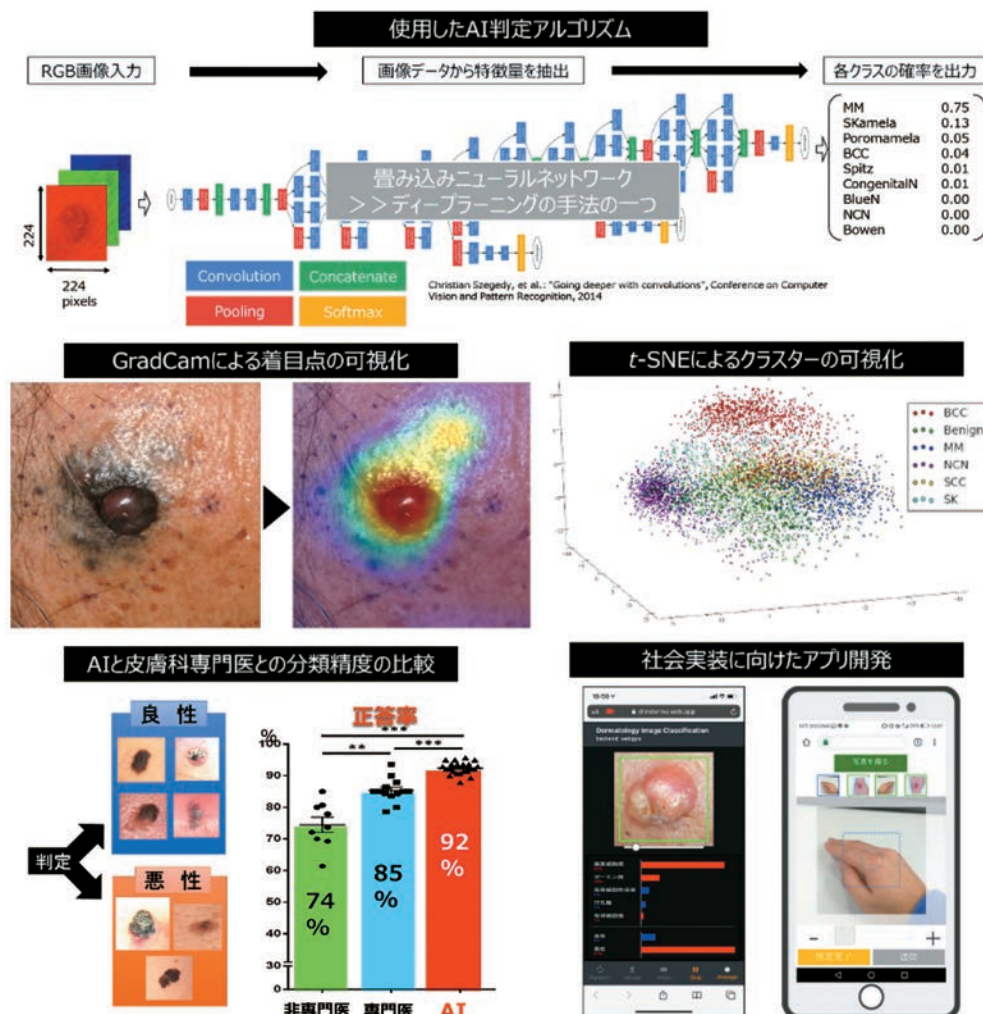
開学以来、医局講座制を廃止しているため、歴史的に学問分野にとらわれない多彩な共同研究が行われています。基礎医学や社会医学との共同研究はもちろん、体育科学と融合したスポーツ医学研究は、医学と体育の双方を持つ国内唯一の本学ならではのものです。また、研究学園都市つくばには医学以外の研究施設が多く、グローバル化の流の中で、宇宙医学、環境医学、国際医学協力など、広い視野にたつ学際的研究が展開されています。

図：筑波大学附属病院におけるがんゲノム医療の流れ



図：画像による皮膚腫瘍 AI 診断システム

人工知能(AI)の分野はこの数年で劇的な進歩を遂げています。皮膚科グループは2016年からこのCNNを用いた皮膚腫瘍のAI診断システムの研究を行っています。現在はこのAI判定器を使ったアプリ開発を行っており、社会実装に向けて研究を行っています。

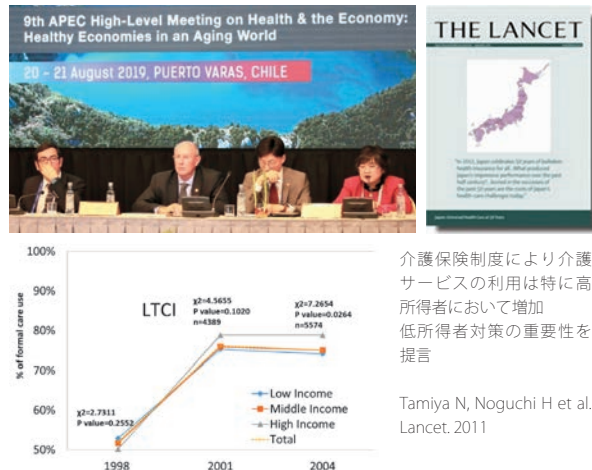


保管されている皮膚腫瘍の画像約6,500枚を用いて、図にあるようにCNNを用いたAIを学習させて判定器を作りました。CNNは従来の機械学習と違い、途中でどのようなプロセスを経ているかが分からない(ブラックボックス)ことが特徴ではありますが、画像のどの部分に着目しているかを可視化する技術も最近出てきています(図中のGradCamやt-SNEなど)。この判定器の性能を評価するため、皮膚腫瘍の画像を分類するテストを医師とAIでその正答率を比較したところ、AIの方が皮膚科専門医より正確に判定できることが分かりました(図下・左)。

社会医学は、主として社会や人間の集団を対象とする研究分野です。疾病の予防と健康管理、公害や環境問題、保健医療政策など、さまざまなテーマを取りあげ、研究成果を社会に還元して人類全体の健康に貢献しています。社会医学の研究が充実していることも筑波大学の特徴の一つです。

●ヘルスサービスリサーチ

医療（保健・看護・福祉を含む）サービスの質を、Structure (or Input)、Process、Outcome の視点から、包括的・科学的に評価・分析し、医療分野だけでなく、政策学、法学、経済学、社会学、人類学等の学際的視点から考察し、その成果を国内外に発信しています。医療から介護・福祉を一連のサービスとしてとらえ、実証データに基づく研究成果を通じて、生活と調和した質の高いサービス提供の実現を促進することを目的としています。近年では医療と介護のビッグデータを用いることによって、介護負担や緩和ケア医療、地域医療、医療費・介護費、医療・介護サービスの評価などについての様々な研究成果を報告しています。また、つくば市と医療・介護分野でのデータ分析に関する覚書を締結しており、筑波大学でのデータ分析による研究成果をつくば市の効率的な医療と介護政策に活かす取り組みも行っています。



写真上：Asia-Pacific Economic Cooperationで、地球規模の課題である高齢化社会の在り方について、日本の介護保険に関する研究成果（Lancet 2011 等）をもとに各国の代表者と議論

●健康情報の解析・評価

地域での実践的なフィールドワークとして、環境や生活様式の変化に伴う生体反応や、疾病構造の変化をいち早くとらえ、それを予防する研究があげられます。統計学や情報科学（Information Technology）を用いた解析や評価を行い、疾病の原因探究や疾病予防・健康管理・健康増進に役立っています。

●国際共同研究 ― 高齢化社会に向けて

日本とは環境や生活様式が異なる国々とのさまざまな比較研究が進められています。未来の日本人が健康で長生きで

きるよう、生活習慣病、老人病の原因を社会の中に探り当て、それを取り除こうとする包括的な予防研究がなされているわけですが、今日の日本人の長寿や、老人保健法、健康増進法の制定には、このような研究が大きな役割を果たしてきました。

●社会生活の人権と安全を守る

法医学では、医学を法的問題の解決に応用するために、社会的実践として変死体の解剖を行い、死因を病理学的・中毒学的方法等で解明しています。また、個人識別や犯罪捜査のためのDNA型検出法や、毒物の測定法の開発、中毒のメカニズムについても研究し、より良い社会の維持や治安のために大きく貢献しています。

●メンタルヘルスと社会

現代社会では、児童や老人の虐待、ドメスティック・バイオレンス、アルコール・薬物依存、自殺や犯罪を始めとする逸脱行為など、メンタルヘルスと密接に関係するさまざまな現象が発生しています。これらの現象の実態と原因を科学的な手法で解明し、予防や治療のための方法を開発しています。

●環境問題に取り組む

アジア地域で特に問題視されている井戸水からの慢性ヒ素曝露による中毒症状や世界的に深刻な問題である大気中微小粒子（PM2.5）曝露によって生じる各種疾患を分子レベルで研究しています。また、このような環境汚染問題に対処するために、世界各国と共同して研究に取り組んでいます。

さらに、地球温暖化による疾病負荷に関する研究をWHOと共同で行っています。

茨城県神栖市における有機ヒ素による健康被害の疫学的調査を環境省の依頼により行っています。

●高齢者の生活リズムの変調に対する看護介入の効果を評価する研究

高齢者の3割が睡眠覚醒障害をもつといわれています。不眠は、免疫力を低下させるだけでなく、うつ状態や認知症の発症に関連し重大な健康問題であると捉えることができ



看護学の研究対象は看護の専門技術や、胎児を含めたこどもから高齢者まであらゆる人々が抱える健康問題まで幅広いことが特徴です。高齢化社会、医療の高度化、国際化社会が進む現在、看護学における研究テーマは多岐にわたっており、研究成果が臨床現場で応用され、人々の健康維持・増進のために活かされています。

ます。北海道から沖縄まで、高齢者の皆さんの生活リズムと睡眠の質について調査と測定を行った結果、概日リズムの同調因子(光、運動、食事、社会的交流)と生活習慣病および嗜好品などが強く関与していることが見出されつつあります。このような実態から、生活リズムを調整する看護介入の意義と効果を評価する方法を開発しています。医療費高騰のおりから、睡眠薬による対処と比較した看護介入による医療経済効果についても検討しています。

●国際発達ケア研究・コミュニティ・エンパワメントと生涯発達ケアに関する研究

子どもからお年寄りまで、一生にわたる発達を踏まえながら、当事者の力を引き出すエンパワメントを科学する研究を行っています。エンパワメントとは「元気になる、元気を引き出す、一緒に元気になる」こと。誰もが持っている限りない可能性や力を最大限に発揮できる環境を整える方法を科学します。諸外国と共働しながら、個人や組織、地域の力を引き出すコミュニティ・エンパワメントの仕組みづくり、よりよいケアの実現を図ります。



パプアニューギニアの子どもたち。
感染予防のための健康教育の仕組み作りが大切。

●保健師教育のあり方・保健師活動に関する研究

少子高齢化の急速な進展、生活習慣病の増加等、疾病予防のための保健指導、介護予防など、地域保健活動の重要性が今日ますます高まっています。そのような状況に対応できる保健師などの地域保健従事者のあり方を追求するために、教育環境の現状と課題を科学的に分析し、今後の方向性を示唆する研究を行っています。具体的には大学における地域看護学の履修時期、地域看護学の特徴を明確にする研究、また現任保健師教育の現状と課題を分析し、保健師育成指針、プログラムを作成し、提唱しています。今後は、保健師が用いるスキルを抽出し、その体系化を試みる研究を進めていく予定です。

●センシングデバイスから有益な生理学的な情報を捉える研究

スマートウォッチが登場して世間一般に広く広まりつつありますが、スマートウォッチが搭載している脈拍の変動をとらえるセンシング機能の発達により医療に十分用いること

ができる精緻な生理学的情報の採取をいつでもどこでも容易に記録することができるようになります。脈波の変動は概ね心拍の変動と一致します。心拍の一拍ごとの時間間隔は規則正しく一定というわけではなく、長くなったり短くなったりという「ゆらぎ」=心拍変動を観測することができますが、加齢とともにその変動の大きさが小さくなっていくことが知られています。ほかにも、循環器の機能の変調などの情報が心拍変動から得られる可能性があります。この知見を応用することで、在宅での療養に、プライバシーを過度に侵害することなく患者をモニタリングすることができるようになりますと考えられます。心拍変動はまた非線形あるいは複雑系(カオス的)と呼ばれるデータの解析が必要な難解なテーマですが、機序の解明に向けて研究しています。

●看護学・医学・工学・理学の融合による月経周期に伴う女性の心身の不調の可視化に関する研究

女性は、女性ホルモンによって月経周期が繰り返されています。月経周期に伴い心身の不調を経験し、それらに起因した日本国内の経済損失は年間6228億円とも言われています。女性がいきいきと健やかに生活するためには、自分自身がその不調に気づくためのセルフモニタリングとセルフケアが重要です。そこで我々は、脳の認知機能の客観的評価方法を用いて、月経周期に由来した精神的な不調を可視化する試みを行っています。女性の多様な症状を多面的に捉えることで、より精度の高い客観的評価指標の構築が可能であると考えています。そして、その特徴から効果的な介入方法を検討し、女性のQOL向上へ貢献していきたいと考えています。



FAQ

共通

Q1 他学群・他学類の授業は受講できますか？

時間的に可能な限り、受講できます。ただし、受講を可とする学群、学類や学年を定めている科目もあります。なお、筑波大学は東京ドーム55個分の広大なキャンパスを持つので、移動に時間が取られる場合があり、注意が必要です。

Q2 単位について教えてください。

単位とは、授業科目の修得に必要な学修量を計る基準となるものです。大学で開講している授業科目にはそれぞれ単位数が定められ、この単位を修得するためには、所定の時間を学修し、試験その他の方法により合格と判定されなければなりません。卒業の判定は、この単位数に基づき決定されます。卒業に必要な単位は、医学類では6年間で199単位、看護学類では4年間で124単位(保健師コースは137単位)、医療科学類では4年間で124単位となっており、在学期間内で余裕を持って修得できるようにカリキュラムが作られています。

Q3 ケア・コロキウムとは何ですか？

この科目はチーム医療、多職種連携を学ぶことを目的とした特徴的なものとなっています。医学群の3学類の学生だけではなく、東京理科大学薬学部の学生との合同プログラムとなっており、実際のケースのシナリオについて、多職種専攻学生で構成されたグループで討論をする体験から、幅広い視点でチーム医療を学ぶことができます。



～よりよいケアを提供するために～
ケア・コロキウムにおける3学類及び
東京理科大学薬学部の学生の討論

Q4 サークル活動やアルバイトは可能ですか？

講義から学べない貴重な体験を、サークル活動から得ることができます。様々な文化系/体育系・全学系/医学系のサークルがあり、学生の多くは、サークル活動と学業を両立させています。アルバイトや地域のボランティア活動も積極的に行っています。

医学類

Q1 筑波大学医学類の特徴のある教育方針や設備について教えてください。

将来、臨床医、医学研究者、医療行政等の先端で広く活躍できる、日本のリーダーとなるべき人材の育成を目的としています。問題を抽出し科学的に考え、患者の立場に立てる臨床医、また癌や脳の疾患、感染症などの病気の機序を解明し臨床現場にフィードバックすることを目的とした基礎医学研究を推進する研究者、社会医学に貢献できる医師の養成を目指し、PBLチュートリアル、クリニカル・クラークシップを中心にカリキュラムが組まれているのが特徴です。PBLチュートリアルは、少人数教育で、課題について学生が議論、調査して解決していきます。また、医学教育をコーディネートする部署(PCME)は、教育を科学的に推進するユニークな部門であり、教育の推進を担っています。設備は、教育効果をあげるために適宜刷新しており、医学教育としては日本のトップレベルであると自負しています。



スキルスラボでの実習

Q2 研究に興味があるのですが、学生時代から医学研究に関わることができますか？

入学直後の時期に研究室訪問があり、医学研究分野で活躍する教員の研究の場をみる機会があります。研究に関心のある学生は「研究室演習」を選択し、放課後や長期休暇を活用して、興味のある分野の研究室で教員のアドバイスを受けながら、最先端の医学研究に参加することができます。更に、5年次後半以降、医学研究者養成コースである「新医学専攻」を選択して、将来へつなげる道が用意されており、今まで研究成果を論文としてまとめた学生もいます。



医学類・研究室演習



看護学類・成人看護学実習



看護学類・小児看護学実習

看護学類

Q1 看護学類では具体的にどのような勉強をしているのですか？

看護に必要な知識は、人間の身体の構造や機能、病気に関すること、さまざまな状況での心理を理解する理論や方法、看護に関することなど幅広く学びます。また直接医療施設や保健福祉施設に出向いて実習も行います。また、専門職として一般教養も必要なので、筑波大学では総合大学のメリットを活かして、さまざまな分野の科目を学ぶこともできます。

Q2 他大学と比べて筑波大学看護学類の特徴的なものは何ですか？

本学類は、科学的根拠に基づいた看護学の確立を目指しています。講座制がないので、教員一人一人がバラエティに富んだ研究や教育に取り組めるということが他大学にない特徴です。学生にとっては特定の看護論に偏ることなく幅広い視野で学習することができます。グループワークも多いので、主体的な学習能力が養成されますし、そのために、専門性の高い、より高度な学問を推進するための大学院も設置しています。

Q3 資格取得について教えてください。

看護師、保健師国家試験受験資格が得られます。また所定の科目を修得することにより養護教諭一種免許状が、保健師国家試験合格後申請すれば養護教諭二種免許状が授与されます。養護教諭コース及び保健師コースは選択(選抜)制で人数の制限があります。

Q4 実習について教えてください。

まず、附属病院や学外の様々な医療・保健に関連した施設で行う「臨地実習」があります。2年次の基礎看護学実習にはじまり、3、4年次では専門領域実習(成人看護学、母性看護学、小児看護学、精神看護学、地域看護学、高齢者看護学)へと、その質、量ともに充実していきます。さらに4年次では「総合実習」として学生自身の関心や志向に応じた専門領域を選択して実習を行い、知識や技術をさらに深めることができます。また、養護教諭のコースでは、専門領域の実習が加わります。

医療科学類

Q1 医療科学主専攻と国際医療科学主専攻の違いを教えてください。

医療科学主専攻では、医療施設で臨床検査に携わる臨床検査技師や検査技術の研究開発を目指した企業などで活躍できる人材を育成します。検査技術を中心に医療分野での専門知識と技能、臨床・チームワーク能力を養う授業・実習を中心とした教育を提供します。

国際医療科学主専攻では医科学領域のグローバル企業、研究所などで世界的に活躍し、医学研究を通じて、国際社会に貢献できる人材を育成します。留学生と共に英語の授業・実習により学び、医科学に関する専門知識とコミュニケーション力、問題解決力を国際性の日常化の中で身につけていく教育を提供します。

Q2 卒業研究について教えてください。

4年次(国際医療科学主専攻では3、4年次)に行います。医学の50以上のもの研究グループから提示されたテーマの中から1人1つずつ選んで行います。4年次秋学期開始前には卒業研究発表会があり、卒業研究論文集としてまとめられます。

Q3 大学院に進学した場合、どのような研究ができるのか詳しく教えてください。

人間総合科学学術院人間総合科学研究群のフロンティア医科学学位プログラムに進学した場合には、医科学、医学物理、橋渡し・レギュラトリーサイエンスに分かれて研究がすすめられます。それぞれのコースに、多くの研究室が所属しており、その中から自分の興味がある分野の研究室で、テーマに沿って研究指導を受けます。最終的には、発表会や論文作成まで丁寧に指導しています。フロンティア医科学学位プログラムが修了したら、社会人として活躍することも、大学院博士課程に進むこともできます。



医療科学類・心エコー実習



医療科学類・臨床薬理学実習

入学試験案内 2026年度入学試験の概要（予定）

下記は、医学群で実施する主な入学試験概要（予定）です。

詳細は、必ず「2026年度入学者選抜要項」（7月下旬公表予定）及び「2026年度学生募集要項」（9月下旬公表予定）を参照してください。

なお、今後の社会状況等によっては、日程・実施方法等を変更する場合があります。本学ホームページでご確認ください。



推薦入試

学群・学類名（募集人員）		日程	2025年11月27日（木）	2025年11月28日（金）
医学群	医学類	44名	小論文・適性試験(1)	適性試験(2)
	医学類地域枠	(注1)		
	看護学類	25名	小論文	個別面接
	医療科学類	10名	小論文	個別面接

※推薦入学で不合格になった場合でも、あらためて個別学力検査等を受験することができます。

(注1) 医学類地域枠（茨城県内対象）については、国との協議によって定員が確定次第、選抜方法等と併せ、本学ホームページにて公表します。

個別学力検査等（前期日程）

学群・学類名（募集人員）		学力検査等の区分・日程	大学入学共通テスト 教科	個別学力検査等 教科・科目名等
医学群	医学類 前期 44名 地域枠(注2)	前期 2026年 2月25日・26日	国語、地歴、公民、数学、理科、 外国語、情報	数学、理科（物理、化学、生物から2科目選択）、英語、 適性試験(1)(2)
	看護学類 前期 37名	前期 2026年 2月25日・26日	国語、地歴、公民、数学、理科、 外国語、情報	国語又は理科（物理、化学、生物から1科目選択）、外国語、 個別面接
	医療科学類 前期 12名	前期 2026年 2月25日・26日	国語、地歴、公民、数学、理科、 外国語、情報	数学、理科（物理、化学、生物から2科目選択）、英語、 個別面接

なお、前期日程に「総合選抜」を導入しています。「総合選抜」で入学した学生は、1年次は総合学域群に所属し、2年次から学類へ所属します。（医学類5名、看護学類5名、医療科学類10名）

総合学域群に関する最新情報はWebサイトでチェックしてください。

(注2) 医学類地域枠（全国対象、茨城県内対象）については、国との協議によって定員が確定次第、選抜方法等と併せ、本学ホームページにて公表します。



学群編入学

学群・学類名（募集人員）		日程	2025年7月12日（土）	2025年7月13日（日）
医学群	医学類	5名	学力試験(1)(2) 適性試験(1)	適性試験(2)

※編入学の年次は第2年次とする。

入試実施後の入試問題について

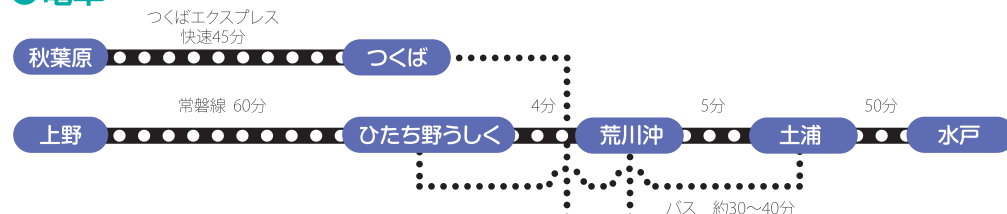
「筑波大学入試情報サイト」から過去3年分の入試問題が閲覧できます。（なお、第三者からの引用箇所等についてはぼかし処理を施しています。）

※筑波大学入試情報サイト
<https://ac.tsukuba.ac.jp>

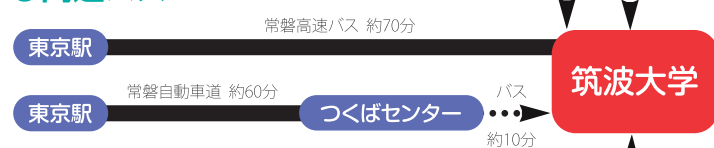
問い合わせ先

〒305-8577
 茨城県つくば市天王台 1-1-1
 筑波大学教育推進部入試課
 TEL: 029-853-6007
 E-mail: gm.nyusika@un.tsukuba.ac.jp

●電車



●高速バス



●自動車



ACCESS

つくばエクスプレス利用

秋葉原駅から快速で45分、つくば駅で下車、つくばセンターで「筑波大学循環(右回り)」または「筑波大学中央」行きバスに乗り換え、約10分(筑波大学病院入口で下車)

JR常磐線利用

上野から約1時間、ひたち野うしく、荒川沖または土浦で下車、各駅から「筑波大学中央」行きバスで約30～40分(筑波大学病院入口で下車)

常磐高速バス利用

- 東京駅八重洲南口から「筑波大学」行きの高速バスで約70分(筑波大学病院で下車)
- 東京駅八重洲南口から「つくばセンター」行きの高速バスで約1時間、つくばセンターで「筑波大学循環(右回り)」または「筑波大学中央」行きバスに乗り換え、約10分(筑波大学病院入口で下車)

航空機利用

- 成田空港：空港→「つくばセンター」行きバス(約100分)・つくばセンターから「筑波大学循環(右回り)」または「筑波大学中央」行きバス(約10分)
- 羽田空港：空港→「つくばセンター」行きバス(約120分)・つくばセンターから「筑波大学循環(右回り)」または「筑波大学中央」行きバス(約10分)
- 茨城空港：空港→「つくばセンター」行きバス(約60分)・つくばセンターから「筑波大学循環(右回り)」または「筑波大学中央」行きバス(約10分)

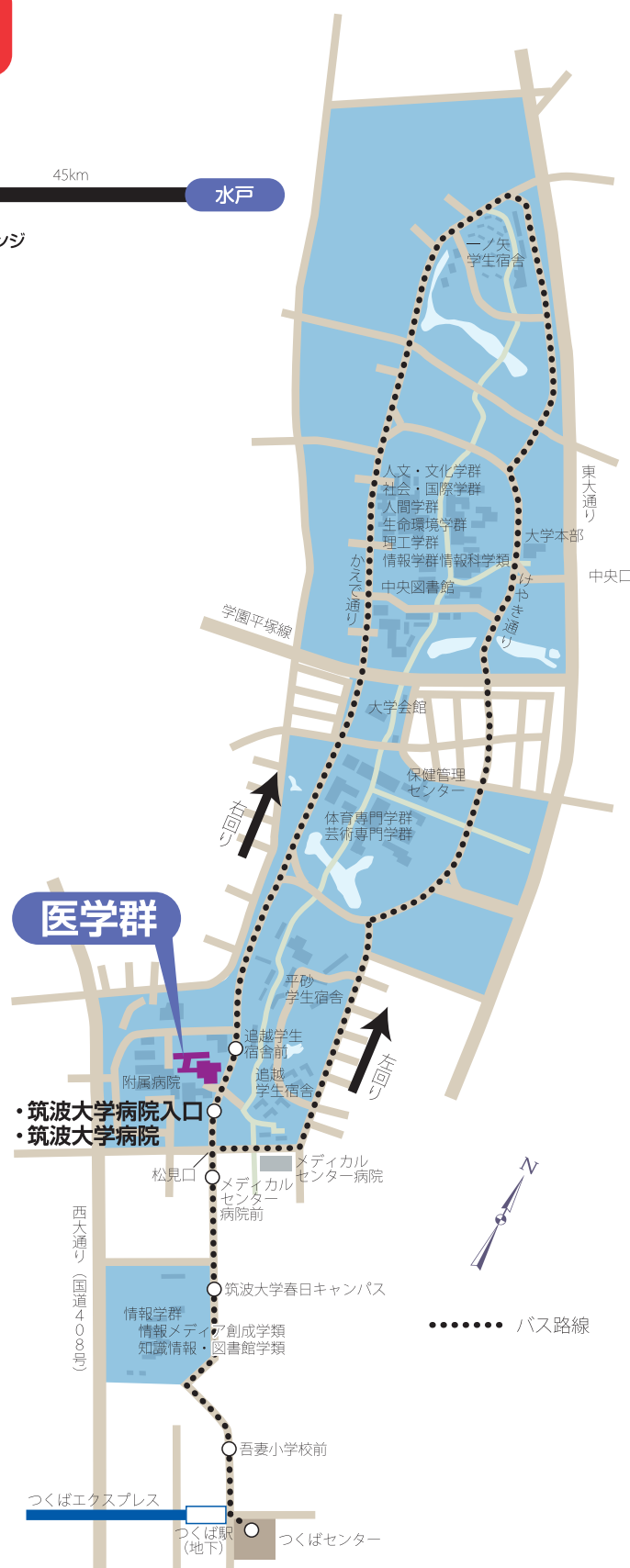
筑波大学 医学群ガイドブック

編集発行：筑波大学医学群ガイドブック編集委員会

〒305-8575 茨城県つくば市天王台1-1-1

<https://www.md.tsukuba.ac.jp/igakugun/>

2025年(令和7年)6月発行





筑波大学 医学群

医学類・看護学類・医療科学類

〒305-8575 茨城県つくば市天王台1-1-1

医学医療エリア支援室 学群教務

E-mail: igaku-kyoumu@un.tsukuba.ac.jp

<https://www.md.tsukuba.ac.jp/igakugun/>

School of
Medicine and
Health Sciences